





# 高校入学式



# 中学入学式



# 部活動紹介

## 音楽部コーラス

音楽部コーラスは、もともと音楽部吹奏楽団とひとつの団体として活動していた。しかし100年の歴史の中で合唱を中心とする部活動として吹奏楽団と分かれ、独立し現在に至っている。多いときは70名ほどの部員を擁していたが、現在は中高合わせて40人程度の部員が在籍している。近年はほつま祭などの校内発表や合唱祭など地域の音楽祭だけでなく、保育園や老人ホームへの訪問演奏、地元夏祭りなど活動の幅を広げてきた。全国高等学校総合文化祭にも1992年の沖縄大会参加以降、福井、茨城、広島各大会にも出場することができた。また2008年から4回、岡山県大会を勝ち抜き、全国声楽アンサンブルコンテストへ出場する機会を得ることができた。この全国大会は毎年、福島県で開催されているが1度は東日本大震災で中止。その後出場した時、現地で震災について部員たちと共に学ぶとともに、仮設住宅での訪問演奏も行わせていただくなど貴重な経験となった。2003年の夏から定期的にコンサートを開催している（2019年からは開催時期を3月に変更）。合唱といえは立ってまっすぐまじめに歌っているというイメージだが、現在では劇やダンスだけではなくチアリーダーイング、カラーガードなどにも取り組んでいる。日々の活動で意見の違いやぶつかり合いもあるが、それらをのりこえ、音楽と共に部員たちは成長している。そしてこれらの活動を支えてくださる家族や多くの方への感謝を忘れず、これからも多くの人に喜んでもらえる歌を歌っていききたい。



## 柔道部

金光学園柔道部は現在中学生8名（男子6名、女子2名）、高校生12名（男子12名）の計20名が所属し、日々活動している。部員の7割が金光学園に入学してから柔道を始めていることは、県内でも珍しい。柔道というと、人と人が組み合い、相手を投げたり、寝技で抑え込んだりするイメージが強い。だが、初心者がまず学ぶことは受け身であり、勝負でいうと負ける方法だ。安全面を考えると当然のことかもしれないが、負けることを学んでから、投げ技や寝技で勝つ方法を学ぶ流れは、人が成長するプロセスの中でとても大切である。競技であるがゆえに勝ち負けにはこだわらず、相手のことを思いやる気持ち、感謝や尊敬の思いをもって取り組む姿勢を培うことが大切である。部員は現在、県大会で上位入賞を収め中国大会の出場権を得ることを目標に活動している。日々の活動にはよく卒業生が訪ね、現役部員と活動をしていきながら応援してくださる。卒業生もまた、自身の現役時代にお世話になったからこそ、自然と後輩のことを気にかけてくださる。柔道という競技の特性や、先輩方が築き上げた良き伝統をいかし、後輩へとつなぎながら、これからの活動につなげていってほしい。



## 金光ボーイの親となって

## 北村 和章

金光ボーイの親となって5年が経とうとしています。思い返せば5年前、入学式当日。県道から学校への入り口付近に立って挨拶をしてくれる生徒。爽やかな雰囲気、先輩たちが笑顔で挨拶をし、迎えてくれました。違和感を覚えたことを思い出します。何だこの雰囲気はと。学校の中に車が入った時も違和感を覚えました。今度は生徒達だけではなく先生方まで爽やかな笑顔で挨拶をしながら迎えてくださいました。先程に続いて何だこの雰囲気はと。その違和感が私立学校特有のものかと考えていた後の入学式。新入学生の保護者代表の方の挨拶。その方は金光学園をご卒業された保護者だったと記憶しています。その方が言われた言葉「私たちの宝物をお預けします」。この辺りからもしかして？と胸が高鳴っていく自分。気が付き始めました。そして最初のホームルームでの先生のお話。人をたいせつに、自分をたいせつに、物をたいせつに。

「この合言葉の中でも私は、自分をたいせつに、が一番大切だと思う。人間の体も重要なところは真ん中にあるので」と言われました。衝撃が走った事を今でもはっきりと覚えていてます。それまでの違和感は、本物だったのだと。生徒も先生方も卒業生の方まで、あの合言葉をそのまま体現していた事に驚き、その時の事を今でも鮮明に覚えていてます。

それから2年経った頃、先輩からやつなみ保護者会の役員のお話を頂きました。金光学園の先生方と触れ合う機会、我が子との関わりが増える。そんな思いで役員を引き受けたのもつい先日のようです。

今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で保護者会活動がほとんどできていません。しかし、残された時間を、出来る事を全力で、保護者会の役員として、金光ボーイの保護者としてサポートしていきたいと思います。

最後に、金光ボーイの保護者になれた事に感謝したいと思っています。

（金光学園やつなみ保護者会副会長）

## 目次

巻頭言	1
金光学園 中学・高等学校 入学式	2
中学ゆずり葉の会	12
金光学園創立126年記念式	13
道(7)	21
自画像	24
メタセコイヤ	25
生徒入賞作品	25
学園生の故郷	26
活躍する卒業生	28
やつなみ保護者会のページ	30
会報	32
金光学園やつなみ保護者会 会長就任挨拶	34
2021年 友愛セール「協力」の御礼	35
令和元年度決算の概要	36
中学生になって	40
ほつま祭	42
中学体育会	46
高3人権講演	50
令和2年度 大学入試結果	52
生徒会活動	53
学園だより	60
教室の窓から	64
編集後記	64

# 金光学園 中学・高等学校 入学式

4月8日、入学式が挙行された。中学は午前9時から125名が、高校は午後1時30分から192名が、来賓・保護者・教職員の祝福を受けて新たな出発をした。

校長式辞の後、中学は仁科智貴君が、高校は村上颯君がそれぞれ「願いの言葉」を力強く述べた。続いて学校法人理事長の挨拶（神田繁雄常務理事代読）、来賓を代表して中学は金光教務総長 西川良典氏、高校は金光教務総長 西川良典氏のご代理 布教部長 浅野弓氏の祝辞があり、次に、保護者を代表して中学は河本聡志氏、高校は西規雄氏の挨拶があった。終わりに、中学は学園歌紹介、高校は学園歌斉唱で式の最後が締めくくられた。

## 式辞

校長 金光 道晴



今年の冬は例年と比べ、殊のほか暖冬で、入学式には、町内や校庭の桜も散ってしまうのではないかと思っていました。今日の日を待っていて、皆さんの入学を祝ってくれているかのように満開になっています。

新型コロナウイルスの感染拡大が続く中で、令和2年度のスタートが出来るかどうか、入学式も予定通り挙行できるだろうかと心配されていました。

昨日は東京や大阪をはじめ、7つの都府県に緊急事態宣言がだされ、学校も再開ができず、休校を続けなければならぬ所がある中で、金光学園としては、様々な事に留意してではありますが、125名の新入生の皆さんを迎え、保護者の方々にも出席して頂き、このように麗しく入学式を挙行できますことは大変嬉しく有り難いことでもあります。

保護者の皆様には本日は誠にありがとうございます。皆様には入学式後の説明会で改めてご挨拶をさせていただきます。と思います。

さて新入生の皆さん、入学おめでとうございます。

たし、再来週には生徒会主催の新入生歓迎会を行う予定でしたが、この度は取りやめることになりました。

残念なことや厳しい状況が続きますが、しかし、このような時だからこそ大切にしなければならぬことや、我慢しなければならないことがあふれていると思います。

金光教の教祖様は「難はみかげ」といわれ、困難なことの中に光を見出し、それをプラスに転じていくことの大切さを教えられています。今の国内外の状況は先の見通しが見えない大変な状況ですが、一日も早い収束を共に祈りたいと思います。東京オリンピック・パラリンピックも、ついに1年先に延期になってしまいました。この状況が一日も早く収束され、この困難な状況乗り越えて、去年はあんな大変なことがあったけれど、素晴らしいオリンピック・パラリンピックが開催できてよかったと言えるようになることを心から願っていますし、小学校の卒業や中学の入学の時は、本当に大変だったけれども、素晴らしい中学1年生を過ごすことが出来たといえるようになる事を願っています。



皆さんは、平成最後の年に6年生になり、令和の新しい時代を迎えて、最初の入学生として、学園の中学生としての生活のスタートを切るわけであり。今新入生の皆さんにはこれから始まる六年間の学園生活に大きな期待や夢を抱いていることと思います。私達もそんな皆さんの入学を心から歓迎し、皆さんのここからの成長を、保護者の方々も協力して、しっかりと応援し、支援していきたいと思っています。

しかし今、日本でも、世界でも、新型コロナウイルス感染拡大が続いているという大変な状況であります。

皆さんにとって、6年生の3月は小学生として最後の思い出作りの大切な時でしたが、突然学校が休みになったり、卒業式も在校生や来賓の方がいない中で卒業式になったり、大変残念な思いになったのではないかと思います。

金光学園でも、皆さんに少しでも学園に慣れてもらってのスタートが出来たらと考え、3月1日と22日の日曜日には登校してもらおうと思っていました。これも出来ませんでした。

来週には入校時合宿も予定していまし

さて、今日からの皆さんの学園生活も最初は慣れないことがあると思います。例えば通学です。学校の近くから歩いて通学できる人もいますが、多くの人は電車やバスや自転車を使つての通学になり、慣れるまでは大変だと思えます。コロナウイルス対策も十分してください。

皆さんの中には、同じ小学校から入学した人もいるかもしれませんが、ほとんどの人は初めて出会う人達だと思います。知つた友達がいなかったり、少なかったりすると不安になったり、心配な気持ちになつたりするかもしれませんが、前向きに考え、新しい友達が出て来ることを楽しみにして欲しいと思います。授業も小学校のように、担任の先生がほとんどの授業を教えるというのではなく、中学では、英語や数学や国語などそれぞれの教科の専門の先生によつて授業が行われますし、勉強の中身も難しくなつてきます。

しかし、皆さんには、全て自分を大きく成長させるチャンスととらえ、何事にも積極的に前向きにチャレンジして欲しいと思うのであります。もちろん、楽しみな事も沢山あると思

います。学園では沢山の文化部や運動部が活発に活動しています。もう既にどの部に入るかを決め、楽しみにしている人もいるかもしれませんが、様々な学校行事も楽しみます。色々なことに早く慣れて、有意義な学園生活を送つて欲しいと思います。

また、金光学園ではグローバル教育を積極的に進めているところですが、皆さんもこれからの学園生活の中で、外国の人と接したり、交流したりする機会が度々できてくると思います。

3年後、皆さんの中3の3学期には、全員オーストラリアの西海岸のパスという所で海外研修をすることを計画しています。それに向けて、英語の勉強なども中1からしっかり取り組んで行つて欲しいと思つています。

慣れるまでは少し大変なこともあるかと思いますが、楽しいことやチャレンジできることが一杯ありますから、早く学校に慣れ、新しい友達をつくり、しっかりと勉強や部活動に取り組んで行つて欲しいと思います。そして様々な体験を通して、これからの中学・高校の六年間で大きく成長して行つていただきたいと願つ

ています。共に頑張つて行きましょう。

ところで、この入学式の後のホームルームで、皆さんには金光教の教祖様のみ教えが書かれている、このような日めくりを記念としてお渡ししますが、今日の八日の日の日めくりには、「食物はみな人の命のために天地の神のつくりあたえ給うものぞ」という言葉が書かれています。

この言葉には「何を飲むにも食べるにも有難くいただく心を忘れなよ」という言葉が続くのですが、食前訓といつて金光学園では食事の前に唱える言葉でもあります。皆さんも今後クラスで一緒にお弁当を食べる時や、合宿などの食事の時には唱えることとなります。

毎日の生活の中では、あたりまえで何でもないと思つている食事がいただけることや水が飲めることにも感謝の気持ちを持たせてほしいと教えられています。

「そして食べ物や飲み物は人の命を育んでいるもので、神様から与えられた天地の恵みであり大切なもの」であることが示されています。

明日の9日の日は、「人の身が大事かわが身が大事か 人もわが身もみな人」という言葉です。「人の身もわが身も

な同じ尊い人間で、かけがえのないもの」であり、そのような精神が元になつてきたのが金光学園の合言葉「人をたいせつに 自分をたいせつに 物をたいせつに」なのであります。

皆さんは入学前から何度か、この合言葉を聞いたり聞いたりしてきたと思えます。学園の全ての教室には、掲げられていますし、正面玄関前の石碑にも刻まれています。

この合言葉は、生徒の皆さんだけに守つてもらおうというものではありません。生徒も保護者の方も私たち教職員も卒業生も、全ての金光学園に関係する人、つまり仲間が行動の目標や目当てとするもので、みんなで努力しあつていこうという願いなのであります。

皆さんは、これから卒業するまでに、何回も耳にするでしょうが、どうぞこれから6年間かけて合言葉の中身をしっかりと身につけていただきたいと思つています。また改めてしっかりと心に刻んで、全てを大切にしよう毎日一生懸命努力して行つていただきたいと思つています。

そして、人を大切に出来る人・自分を大切に出来る人・物を大切に出来る人、



つまり合言葉を実践できる人になつていただきたいと願つております。終わりにもう一度合言葉を申し上げて式辞といたします。「人をたいせつに 自分をたいせつに 物をたいせつに」

## 法人理事長挨拶

和泉 正一  
(神田繁雄 常務理事代読)



天地の息吹を身体いっぱい浴びて、晴れて金光学園中学校に入学された生徒の皆様には、誠におめでとうございます。「ようこそ金光学園へ」という歓迎の心を込めて、お祝い申し上げます。保護者の皆様におかれましても、今までお子様を愛情深く育ててこられ、晴

れて入学の日をお迎えになりましたこと、誠にお慶びのことと存じ、心よりお祝い申し上げます。

また、ご臨席を頂いている金光教務総長におかれましては、日頃から金光学園に変わりなく温かいご理解とご支援を賜っておりますこと、誠に有り難いことに存じ、厚く御礼申し上げます。

さて、我が金光学園では、「学・徳・体」を建学の精神として、「お役に立つ」人間を育てる教育に取り組んでおります。

「学」とは学問の学、「徳」とは人間として尊い行いを為す品性、「体」とはからだということ、これらを健やかに身につけて、社会に貢献できる人間にならせていただくことを願って、「学・徳・体」を建学の精神としています。

社会に貢献するというとき、最も小さな社会は家族・家庭でありましょう。また、最も大きな社会は世界・人類でありましょう。家族に貢献する、あるいは世界・人類に貢献する。そのために「学・徳・体」を身につけるということです。

そして、それを身につけるための日々の実践として、「人をたいせつに 自分をたいせつに 物をたいせつに」という

合言葉が、金光学園にはあります。

私たちは、人や物に囲まれて生活しています。人や物の中心に自分が居るということです。そして中心に居る自分、周りの人々や、周りがある物をたいせつにするとともに、周りをたいせつにする自分自身をもたいせつにすることが、重要なことです。そうしてゆくことによつて、おのずから、人間として尊い行いを為すことができる人格が形成されてゆくのです。

これから先、学園生活を日々送つてゆかれる新入生の皆様には、建学の精神と合言葉をたいせつに、自ら進んで、社会のお役に立つ生き方を求めて行つていただきたいと思ひます。

また保護者の皆様におかれましては、前の金光教教主・金光鑑太郎様がお詠みになった、「父母も 子どもとともに生まれたり 育たねばならぬ 子ども父母も」という歌にあるように、生徒の皆様とともにお育ちになる心で、お子様方を見守り慈しみお育てになつて、親子共々、学園生活を意義深いものにして行つていただければ、誠に有り難いことに存じます。この場にご臨席の生徒や保護者の皆様

方の、幾久しいご健勝とご活躍を祈念申し上げます。挨拶とさせていただきます。

## 私達の願い

新入生代表 仁科 智貴

やわらかな春の風に包まれ、今日、私達、新入生126名は、金光学園中学校の入学式を迎えることができました。憧れの金光学園中学校に入学できたことを、とても嬉しく、また、たいへん誇りに思っています。

これから始まる中学校生活には大きな期待と不安もありますが、先生方や先輩方のご指導をいただき、友達と友情を深め、協力し合い、勉強やほつま祭、体育会などの学校行事に励むことはもちろん、部活動も頑張りたいと思ひます。

そして、金光学園の合言葉である「人をたいせつに 自分をたいせつに 物をたいせつに」をいつも心に留め、お世話になるすべての人や物に感謝することを忘れず、立派な学園生になれるように頑張ります。

本日は、私達新入生のために、このような素晴らしい入学式を行っていただき、

本当にありがとうございます。

最後になりましたが、校長先生をはじめ、多くの先生方、そして、先輩の皆様、不慣れな私達ですが、温かい目で見守り、ご指導してくださいますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

## 中学・保護者代表挨拶

河本 聡志



桜の花も美しく咲きそろつたこの良い日に、先生方をはじめ学園関係者の皆様、そして在校生の皆様におかれましては、入学式を催して頂き、本当にありがとうございます。このような御時勢ではありますが、子どもたちと同様に我々保護者

も今日この日を迎えることができたことに安堵感と喜びで感慨もひとしおでございます。

また先ほどは校長先生、理事長先生、金光教務総長様には温かいお言葉を頂戴し、保護者一同心より感謝申し上げます。親子ともども身の引き締まる思いでございます。

さて新入生の皆さん、今日のこの日を迎えるために大変な努力をされてきたのではないのでしょうか。お一人お一人のそれを想うと心から「おめでとう」という感情が湧いてきます。御入学、本当におめでとうございます。制服姿も少し大人びた印象でもとお似合いです。皆さんにとつての小学校生活は、どのようなものだったのでしょうか。それぞれが小学校6年間で多くの経験をし、そこの学びを内に秘め、今ここにおられることと思ひます。

これから皆さんは、それをもとに金光学園でも様々な経験を積み重ねていかれます。そしてその経験から一人ひとりの大切な価値観・考えを創り上げ、素敵な大人に近づいていかれます。

私は病氣や怪我、障害を負つた方々に





関わる仕事をしています。御経験がある方もいらっしゃると思いますが、病気や怪我、障害を負うことで今までであった当たり前の生活ができなくなってしまう。皆さん「元の生活に戻りたい」「理想の生活をした」と思われるわけですが、我々の勝手な価値観で治療を行うと不思議と上手くいきません。「なぜ元の生活に戻りたいと思うのか?」「なぜそのような生活を理想と思うのか?」とそれぞれの方の価値観を大切にすることで、ひとりひとりに合った関わりができ、自然と上手くいきます。これができるのは学園生活で「人をたいせつに」を無意識に身に付けることができたためだと思っています。まだ皆さんは中学生であるということもあり、ご自身と他人の価値観・考えの違いに戸惑い、衝突することがあるかもしれません。ですが、この金光学園での自身の生活経験から、みなさんが他人の価値観・考えを大切にできる素敵な大人になられることを私は確信しております。

ただ、それは皆さん自分一人だけでは叶えることは出来ません。人は、環境の中で生きています。自分以外の人や物

環境であり、必ずその影響を受けながら生活をしています。素敵な大人になるためには、自分に影響を与えてくれる素晴らしい環境が必要です。ここにはそれがありません。「人をたいせつに」自分をたいせつに「物をたいせつに」の精神が日々の学園生活の中に溶け込み、自然と身につくよう先生方が支えてくださいます。その環境を与えてくださった家族に「ありがとう」を改めて伝えてください。そして与えてもらうだけでなく、自分自身が環境の一部として、同級生が素敵な大人になれるよう影響を与えてください。ここで出会った同級生は、皆さんが行動し、会うべくして出会った方々です。その出会いを大切に、素敵な6年間を過ごしていただければと思います。

保護者の皆様、改めましてお子様のご入学おめでとうございます。人は死ぬまで発達すると言われています。我々保護者もその途上にあり、お子様が成長・発達していく姿を見守ることで、様々な経験をし、様々な感情を抱き、親として成長・発達できることと信じています。子どもたちが同級生となったご縁を大切に、どうぞこれからの6年間、よろしく

お願いいたします。

そして、先生方におかれましては、多感な時期である子どもたちの教育は大変ご苦労をされることと思います。私自身の学園生活を振り返ると大変申し訳ない気持ちでいっぱいになりますが、どうぞ子どもたちを温かい眼差しで見守っていただき、時には厳しくご指導くださいますようお願いいたします。

最後になりましたが、金光学園の益々のご発展と、ここにお集まりの皆様のご健勝を祈念いたしまして、保護者代表の挨拶とさせていただきます。ありがとうございます。

## 新入生願いのことば

新入生代表 村上 颯

どこからともなく薫る春の息吹に、新たな「始まり」を感じるこの良き日に新入生192名は、このように盛大な入学式を挙行していただき、晴れてこの日を迎えられることに心から感謝いたします。

私は、中学の3年間でさまざまな経験をしました。嬉しかったこと、誇りしかつたこと、悔しかったこと、悩んだこと。ここに在る皆それぞれがたくさんの経験

をし、またその分成長したと思います。

けれども、まだまだ発展途上です。これからの高校生活をこの仲間たちとともに充実したものにし、将来振り返った時に有意義だったと思えるような3年間になりたいです。そして、将来の夢を見つけ、それに向けて一日も無駄にすることなく日々精進していきたいと思っています。

私たちは今、大変恵まれた環境で生きています。この金光学園では、海外留学などにも参加しやすく、多くのことに挑戦することが出来ます。このような環境で生活できることに、本当に感謝しています。

しかし、いくら環境が整っていても、そこで自分に満足してしまおうとそれ以上の成長は望めません。満足するとそれ以上求めなくなるからです。Stay hungry, stay foolish. これは、ステイ・フュー・シヨブズの言葉です。おもに「満足するな、常識を疑え」と解釈されています。私は小さな世界の普通にとられず、常に上を追い求めていきたいと思っています。

校長先生をはじめ、諸先生方、そして両親にはこれからも厳しく、そして温かく私たちをご指導くださいますようお願い



い申し上げ、願いのことばとさせていただきます。  
だきます。

## 高校・保護者代表挨拶

西 規雄



新入生の保護者を代表致しまして、高いところではございますが、ご挨拶をさせていただきます。

コロナウィルス拡散防止対策として様々な行事が中止や延期となり、卒業式や入学式においても在校生や来賓がいない形で、時間を短縮するなど工夫をして実施されています。ある校長先生が「式は形では無く心である」とお話されておりました。私もそう思います。今日は、

心がかもった温かい入学式を開催して頂きます。心より感謝申し上げます。  
新1年生の皆さん、今日は高校入学誠にめでとうございます。

突然の休校で長い春休みとなりました。それぞれに工夫して、春休みを過ごしたのではないかと思います。我が家では子供達の暇つぶしに、パズルを購入しました。子供の選んだ1,000ピースのパズルは、色の変化が少ない難しい物でした。子供達がやり始めましたが難しく全然進まないの、見かねて私も参戦しました。色の変化の少ないパズルは困難で、僅かなピースの違いをヒントに、何度かはめ変えることを繰り返し、やっと1ピースを埋めることが出来る難しさでした。やりながら「これって人生に似ているな」と考えさせられました。先のない選択や苦勞を繰り返し、その時は出来事の意味合いさえ見いだせない様に感じますが、試行錯誤を繰り返しながらも1つ1つピースを繋げる事で、少しずつですが確実に人生のパズルは進んでいきます。幾ら時間が掛かっても失敗しても、挑戦を繰り返せば確実に1つずつ進みます。人生において色々な事が万全で、

全て上手くいく時期は僅かしかありません。ほとんどの時期は、何かしらの課題や試練に向かい合いながら過ごします。社会に出て活躍を続ける人は、それを乗り越えることが出来る課題解決能力が優れています。

義務教育課程を終え、これからは自分の意志で色々と選択をしていく事になります。失敗を恐れて行動しないことが一番良くありません。間違えたり失敗したりする事もありますが、どういう結果であっても必ず後々考えると、糧となり「その出来事があったからこそ良かった」と思えるようになります。積極的に色々な事を経験し1ピースずつ大切にして、人生のパズルを進めていって下さい。

さて金光学園の高校生活で、是非身につけて頂きたい事があります。色々な事を自分でやっていると自分がちですが、ほぼ全ての事は自分1人では出来ないのです。ご飯を食べていると言っても、自然や生産者や調理した方などがいて、初めてご飯を食べさせて頂いています。勉強をしていると思いがちですが、保護者の方々の支えなどがなければ、勉強をさせて頂く事も出来ません。自分の意志で



心臓を動かす事も出来ず、生きさせて頂いています。つまり、しているのではなくさせて頂いているのです。そのように思います。関わる人や物に感謝する心がそなわります。是非とも、これを身につけて頂きたいと願います。人生の歩み方が大きく変わります。金光教の教えは、この事が基本となっていると感じています。

保護者の皆様、お子さんが生まれた時の感動を思い出して下さい。あんなに小さかった赤ちゃんを、こんなに立派に育て頂きました。あの赤ちゃんが近頃少し生意気で、言う事を聞かないかも知れませんが、それも立派な成長です。これからは小・中学生の時の様な関わりとは変わって行くと思いますが、私は子供の可能性を信じ応援し続ける親バカであり続けたいと考えています。手本となる気はしませんので、どうしようか悩んだ時に、少しのヒントを与える事が出来たり、私より経験値のある方に繋ぐことが出来たら、有り難いと考えています。これから高校生活という人生設計においても、大切な経験をする時期を迎えます。是非とも保護者一体となって、見守り応

援してやりましょう。

金光道晴校長先生をはじめ、諸先生方、これからの3年間、私たちの自慢の生徒達をどうぞよろしく願います。親子共々にご指導を賜り、お育て頂きたいと願います。最後になりましたが、コロナウィルスのいち早い終息と、金光学園のますますの発展を心より御祈念致します。本日関わって頂きました全ての人物に感謝致しまして、保護者代表の挨拶とさせていただきます。有り難うございました。



# 中学ゆずり葉の会

令和2年3月17日、義務教育修了式が行われた。式の中では藤原京香さんが中学3年間で振り返り、仲間への感謝の気持ちを述べた。式の後半の「あしあと」では、今までの写真をプロジェクトで映し出し、学年団教員のナレーションで3年間で振り返った。「あしあと」の最後には、大山登山や沖繩修学旅行で感じたことや、義務教育修了に向けた気持ちを詠んだ短歌も紹介された。その後、3年生は構成詩を読み上げ、保護者の方への感謝と、高校生活にむけての決意を伝えた。最後に中3全員で「さくら」を合唱し義務教育修了式を終えた。例年通りの「ゆずり葉の会」は行うことができなかったが、制限のある中で、それぞれの思いのこもった素晴らしい式となった。



# 金光学園創立126年記念式

金光学園創立126年記念式が、11月13日、厳かに挙行された。新型コロナウイルスの影響下であったため、朝9時、校長と全クラスの代表生徒各2名が本部広前に参拝し、高3中村啓馬君、中3田中希莉子さんが、教主金光様にお礼のお届けをした。

今年度の祭事、式典は120記念館大講義室で実施し、その模様を各HR教室にオンラインで中継した。10時に代表の生徒および教職員が集合し、祭事が始まった。まず、感謝祭が行われ、学校法人金光学園理事長の祭詞に始まり、各代表より玉串が奉奠された。

式典は、国歌斉唱で始まり、校長式辞、生徒代表の所願表明と続き、金光学園歌斉唱で締めくくられた。生徒は終礼の後に下校し、11時45分にはつま体育館で全教職員の記念写真撮影した。



式辞

校長 金光 道晴

皆さんおはようございます。今日の創立記念式は、学園始まって以来初めてオンラインで行っています。例年なら、全校の生徒教職員が一堂に会して体育館で挙行します。そして記念式に先立って、全生徒・全教職員そろって金光教本部参



拝や初代校長頌徳碑などの参拝の後に式に臨んでいましたが、今回は62名の各クラスの代表生徒による参拝になりました。全体での予行も参拝も出来ませんでしたので、私の方から事前に皆さんにお話する時間とれませんでした。そこで体



オンライン中継による各クラスの状況

育館での式辞と違って、オンラインで写真なども見てもらいながらお話をさせてもらいます。画面を通してではあります。がしばらく聞いて下さい。

中学1年生や高校から新たに入学した高1の皆さんにとっては、初めてのことで、例年の記念式がどんなものかわからないと思います。そもそも、皆さんは出身の小学校や中学で、創立記念式を経験した人はほとんどないと思うのであります。高等学校でも県立・私立を問わず、毎年創立記念式を行っているところはほとんどなく、何十周年の記念ということで10年に一度行う学校が大部分です。

しかし、人が誕生日を毎年お祝いをするように、金光学園では、学校の誕生日を毎年お祝いしています。全生徒・全教職員で神様やお世話になった方々にこれまでの御礼を申し上げ、これからの事や今後の学園の発展を願い、挙行しているのであります。そして、式典後の記念講演も開催し、毎年素晴らしい卒業生の方々の話を聞かせてもらっています。金光学園では創立記念式をとっても大切な行事と考えているのであります。

今朝は式典に先立ち先程9時から、代



表生徒で参拝をし、さらに全校生徒を代表して、高3の中村啓馬君と中3の田中希莉子さんが教主金光様に御礼とお願いのお届をし、学校へ帰って来ました。そのお届の言葉は次のようなものでした。「私たち金光学園中学・高等学校は、今年創立126年を迎え、本日創立記念式を挙

行させていただきます。今年は全校生徒揃っての参拝は出来ず、各クラスの代表生徒の参拝となりましたが、全生徒を代表して、これまでお世話になったすべてのものに感謝し、お礼を申し上げます。

今年新型コロナウイルス感染症拡大のため、学校が休校となったり、様々な学校行事や部活動の大会・発表会などが中止になったり、制限されるなど残念な思いになることが多くありました。しかし、金光学園では、ほつま祭や体育祭をはじめ、出来るだけの取り組みを行い、大きな成果につなげることができました。そして、本日うるわしく創立記念式を迎えさせていただきますことに心から御礼を申し上げます。

学園生全員がこれからの金光学園の発展のために、より一層努力するよう、決意を新たにしているところであります。特に、高校3年生におきましては、受験を目前に控え、それぞれの願い成就のおかけをいただきますよう、また他の学年の生徒も一人ひとりが健康で、それぞれの目標を達成することが出来ますよう、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。有難うございました」というものでした。

それに対し教主金光様から「おめでとうございます。ここからのおかけをいただきますよう」とのお言葉を頂きました。

さて、毎年この創立記念式での校長式辞では、学園の歴史や学園にゆかりのある方や卒業生のことを取り上げてお話ししていますが、今日は初代校長から始まる7人の歴代の校長先生とその校長先生が残されている石碑(石の碑)についてお話し、金光学園がここまで大切に、またこれからもずっと大切に続けていきたい願ひをお話ししようと思います。

最初にお話するのは、初代校長佐藤範雄先生であります。ちょうど今事務室前の玄関を入った所にも、初代校長にかかわる創立当時の写真などが展示されていますから、改めて見てみて下さい。

この右上の写真の石碑には「佐藤範雄先生頌徳之碑」と大きく書いてあります。本来なら今日の創立記念式の日には全員そろって参拝をする木綿崎山の上にある石碑であります。ちょうど国道2号線のトンネルの上あたりに建てられているのですが、お墓ではありません。頌徳碑の頌徳という言葉は徳をほめたたえるという意味で、昭和6年(1931年)佐藤



範雄先生76歳の時に建てられました。校長を退官されて9年後のことですが、初代校長が固辞される中で、近隣の教育関係者の方々の強い願ひにより建てられたのがこの頌徳碑であります。

そのご自身の思いを、

「あふぎみる 神のみいつのみかげ石  
吾魂常磐に ここにとどめむ」

と歌にして残されています。そしてそのお歌は後、頌徳碑の横に歌碑として建てられたのであります。このお歌の意味は「(8~9メートルもの高さ) 仰ぎ見る神



代表生徒による本部広前の参拝

のです。あの場所は昔学校の正門があった場所ですが、当時のもので残っているのはあの大王松だけであります。もうひとつの石碑は先ほどお話した二代校長の佐藤金造先生の歌碑の横、茶室「碧水庵」の前に「母校の心」と書かれたものです。先生は金光教の精神を元に、その濃厚篤実な人柄から誰からも敬愛された宗教的教育者であり、40年の長きにわたり、学園教育に多大な貢献をされた方であり、終戦前後の動乱のさなか、言語に絶する教育運営の困難を一身に担い、戦後の学制改革、男女共学の導入など民主的な教育を整然と展開されていかれました。退職後は同窓会理事長（今でいう会長）や図書館長などの多くの重責を歴任されておられますが、母校への熱い思いを持たれた先生でありました。

続いて四代校長の隅田武彦先生の言葉の書かれた石碑が中学棟の前の「学徳体一本の教育」を説かれ、自らも実践されました。「真剣に学問に打ち込み、人のため世のために役立つ人間になれ、そしてそのためには強靱な体をつくりあげよ」と常にさとされた先生であります。私が

中学へ入ったときにはまだ学園長のお役についておられた先生であります。

隅田先生は大学を卒業後、京都大学化学研究所に入り、人造繊維・合成繊維の画期的な発明や工業化によって日本化学会などから技術賞を受けた科学者で、京都大学や東京理科大学の助教授や教授を歴任された方でもあります。先生はそれまでの全ての社会的地位や職業を辞して学園長、校長として赴任され、22年間にわたって、学園教育の原点に自らの熱心な信仰生活を置き「学徳体一本の完成を願う」全人教育を追及されました。

五代校長佐藤一徳先生の歌碑は学園の正面玄関の北側、校長室のすぐ前にあります。

「千五百分の一にはあらず  
一分の一なる吾子を愛しまざらめや」  
には熱い宗教的教育理念を見ることが出来ます。この石碑は先生の昭和57年の叙勲（勲四等瑞宝章）の際の記念講演の中で「誰が一分の一と言おうと、人が言うてくれるだけではだめ。自分自身が一分の一の存在でなくてはいけない。この自覚を皆さんに促したい。私も校長として、また、人間として一分の一でなければな



様の御威光のある御影石（花崗岩）よ、わが願いを永遠にここにとどめよう」という意味であります。

初代校長は21歳のとき63歳の教祖様の下に参拝され、教祖様から「辰の年一心に信心せよ 大願成就させる 人を助ける身となれよ」というお言葉や「人が助かりさえすればよい」というお言葉を実

現するためには、この教えを伝えていき、世のお役に立つ人材を育成する教育や学問が必要であるという思いを強く持たれ、その熱い願いをこの歌に詠まれているのであります。76歳というご高齢になられても、なおすさまじい熱き祈りや願いが感じられるお歌であります。

次に、二代校長佐藤金造先生です。金造先生は初代校長のご養子となられ、金光中学に39年の長きにわたり勤務され、やがて二代校長としてそのあとをお受けになりました。二代校長は歌人でもありました。二代校長が学園の茶室「碧水庵」の横にあります。その歌は「母うたへば子もまたうたふ子もり歌よきは、もつ子よき子もつは、」というものであります。

二代校長の抱いておられた家庭での母と子の間に流れあう心のあり方が詠まれています。家庭教育の最も大切な母子の関係が詠まれているお歌であります。金造先生は多年にわたり、歌の修練をつまれています。後に「学園歌（校歌）」の作詞もなされています。

その「学園歌」は1950年（昭和25年）につくられたもので、一番は「木綿崎山

の山空に」と始まり、四番は「遙照の下占見野に」と始まります。1950年と言えばちょうど木綿崎の山下の校舎から、今のこの遙照のふもと占見野に数年かけて学校が移転していた時期なのであります。

また、一番から四番まで全て最後は「我らが学ぶ金光の学園永久に光あれ」と歌われています。二代校長の金光学園の発展を強く願われた熱い思いが、表現されているのが学園歌なのであります。そのような思いで、今日この後共に学園歌を歌いたいと思います。

次に三代校長内田律爾先生です。内田先生は初代校長を通して、神様のご縁を頂かれ、母校に奉職され、昭和19年（1944年）から8年間校長をつとめられています。この時期は先程申した学園歌が誕生した時期でもあり、校舎が金光教本部祭場のある場所から、今の占見野に移転する時期であります。三代校長内田先生にかかわる石碑の一つは金光教本部の境内地にあります。

大きな松はつくりをつける大王松の根元の所へ据えられている記念碑の文字「金光中学校の跡」は内田先生の筆によるも

らない。お互いにめいめい一人一人、金光学園の生徒として、そして人間として一分の自覚をもって、今月今日きょう一日を大切にしまいたいと存じます」と述べられています。学習と部活動の両立を求め、「欲深教育」を推進し、先ほど申しましたように生徒一人一人の命や存在を「一分の一」と捕らえて、学園教育を推進されていかれました。

さて、最後になりますが、学園にはもう一つ大切な石碑があります。それは正門を入った所にある合言葉「人をたいせつに、自分をたいせつに、物をたいせつに」の石碑で、号を碧水と言われる前教主金光鑑太郎様の筆によるものであります。平成元年、創立95年の六代校長加賀道郎先生の時に建てられたもので、この石碑の除幕式のときに加賀先生は挨拶の中で「合言葉の石碑が95年の節年に建立されたことはありがたい。

この合言葉は生徒だけのものではなく、教職員・父母教師会・同窓会も自分たちの合言葉として考えられて、今日の式に参列された。生徒諸君も心を一つにして、合言葉の実践に心がけ、世のお役に立つ人になってほしい」と述べられています。

そして前校長七代校長佐藤元信先生も、この合言葉の実践を繰り返し、繰り返し述べられ、また教祖のみ教えや歴代の校長先生の大切な願いを一層強く説かれています。六代校長は93歳、七代校長も84歳というご高齢になられています。まだまだご健在であられ、日々金光学園の事、生徒や先生の事を祈念下さっております。すことは誠に有り難いことであります。

このように教祖の教えに導かれた初代校長から、歴代の校長先生の願いやその精神は、学園教育に脈々と受け継ぎ、伝え続けられていのであります。生徒の皆さんも私達教職員も、今日の創立記念式に臨んで、改めてその願いや建学の精神に立ち返り、それらが集約された金光学園の合言葉を一層大切に、実践し、学園を発展させていかなければならないと決意を新たにしているところであります。共に頑張ってくださいませ。

「人をたいせつに、自分をたいせつに、物をたいせつに」の合言葉を申し上げて式辞といたします。本日は誠にとおめでとございました。

## 所願表明

生徒代表 中澤 勇之助



我が金光学園は、126年前に創立されました。ちょうどその頃、第1回アテネオリンピックが開催されました。そして、今年創立126年の年に、第32回東京オリンピック・第16回パラリンピックが開催されるはずでした。しかしこの春、新型コロナウイルスが世界中で流行し、人類が過去に経験したことのない事態に陥りました。さらに私達を取り巻く環境・生活様式が大きく変化し、学校生活も休校措置がとられるなど大きな影響がありました。私は野球部に所属しています。幼い頃から私にとって甲子園は憧れの舞台でした。しかし、新型コロナウイルスという

## お届け

おはようございます。金光様、日々ご祈念いただき有難うございます。私たち金光学園中学・高等学校は、今年創立126年を迎え、本日創立記念式を挙行させていただきます。

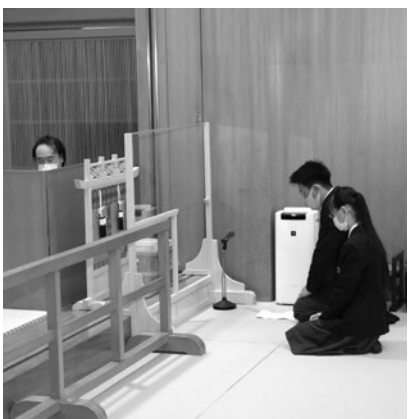
今年には全校生徒揃っての参拝は出来ず、各クラスの代表生徒の参拝となりましたが、全生徒を代表して、これまでお世話になったすべてのものに感謝し、お礼を申し上げます。

今年には新型コロナウイルス感染症拡大のため、学校が休校となったり、様々な学校行事や部活動の大会・発表会などが中止になったり、制限されるなど残念な思いになることが多くありました。しかし、金光学園では、ほつま祭や体育祭をはじめ、出来るだけの取り組みを行い、大きな成果につなげることができました。そして、本日うるわしく創立記念式を迎えさせていただきますことに心から御礼を申し上げます。学園生全員がこれからの金光学園の発展のために、より一層努力するよう、決意を新たにしているところであります。

特に、高校3年生におきましては、受験を目前に控え、それぞれの願い成就のおかけをいただきますよう、また他の学年の生徒も一人ひとりが健康で、それぞれの目標を達成することが出来ますよう、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。有難うございました。

生徒代表

中村 啓馬  
田中希莉子



未知のウイルスは、甲子園だけでなく、他の部活動をしている人達、さまざまなことに向かって頑張っている人達の目標、希望を奪っていきました。

3月初旬、休校措置がとられ、数日程度野球部の練習ができた日があったものの、約3か月に及ぶ活動休止に追い込まれました。春の選抜甲子園大会に続き、夏の甲子園大会までもが中止になるという史上初の出来事が起こりました。高校野球に憧れ、仲間とともに同じ目標に向かって練習してきたそれまでの日々が裏切られたような気持ちになりました。し

かし、私は新型コロナウィルスで苦しんでいる、大切な家族を失った方がいる、そのような状況下での中止は、致し方ないことだったと思います。日に日に感染者は増え、明日は我が身と思いながらの生活は苦しく辛いものでした。

休校が明け、県独自の代替大会という一つの道が示されましたが、甲子園に通じていない大会にどう向き合うのか、選手達の意見は割れました。「自分は何のために野球をやっているのだろう」「そもそも自分は何をもって引退することが出来るのだろう」と考えさせられる日々でした。しかし、代替大会を終えた今となってみれば、夢が閉ざされて、目標がなくなっただ中でも、仲間と最後まで一つのことをやり遂げ、状況を判断して行動する力や自分の意見を伝える力、仲間と共感し相手を思いやる力など、こうした社会に出てから必要な力を育めたことに本当の価値があったのだと思います。この経験で得たものは、きっとこの先の人生において大きな力となることでしょう。

また、私はこの経験で、当たり前だった日常が当たり前ではないことに気づかされました。私達は誰かの力や真心に支

えられて日々の生活を送ることが出来ています。毎日学校に通ってクラスメートと授業を受けることができる、学校行事や部活動を楽しむことができる、そういう日常はもはや当たり前のことではなくなったのです。今まで当たり前のことだと感じて普段はつい見逃してしまいがちだったこの日常の大切さと感謝の気持ちを、学園の合言葉「人をたいせつに、自分をたいせつに、物をたいせつに」とともにしっかりと心に留めなければならぬと思います。

さて、パナソニックの創業者である松下幸之助さんは困難こそ発展の好機として次のような言葉を残しています。

「私は困難に直面したときに必ず何もの力を生み出してきている。かつてない難局であれば、それは同時にかつてない発展の基礎となる」

まさに今、世界は未曾有の難局に立たされています。私達は、働き方を変え、生活を変え、社会そのものを変え、困難を余儀なくされましたが、その困難が新たな社会や価値観を生み出し、未来への一歩を踏み出させてくれる好機なのかもしれませぬ。

金光学園の126年という長い歴史の中には、二度の世界大戦があり、戦後の混乱、社会の変革、度重なる教育環境の変化など多くの困難があったと思います。しかし、そういった中でも真に世のお役に立つ人材を育成しようという大きな使命感を持って尽力した教職員の方々とそれに応えた先輩方の努力と成果を思うと、この126年の歴史の重みをより強く感じます。そして、数多くの先輩方が紡いできてくださったこの金光学園の歴史と良い伝統を受け継ぎ、時代や社会に応じてより新たな歴史や伝統を築いてゆくのは私達自身であると思います。学園の教えを受けた私達にはこの苦境を乗り越える力があると信じています。自分達には無限の可能性があることを信じ、夢と希望を持って未来へ向かって歩んでいくことを誓います。最後になりましたが、金光学園のさらなる発展を願い、所願表明とさせていただきます。



# 道

(27)

## 金光 道晴

### 金光町と映画ロケ

今回はいつもの「道」で取り上げてきたテーマとは少し内容を変えて「金光町と映画ロケ」というテーマで、これまで金光町をロケ地にして作られた映画について書こうと思います。

日本の映画が最初に放映されたのは明治の終わり頃と聞いていますが、現在まで金光町が映画のロケ地になったのは、何と大正13（1924）年につくられた「性は善」というタイトルの無声映画です。当時、映画は活動写真と呼ばれていましたが、「性は善」は金光教本部の門前町として栄えた旧浅口郡金光町を中心に作られたもので、元帝国キネマ撮影所長であり金光教の信奉者であった川口吉太郎という方が神様のおおげを受けたお礼に、お役に立ちたいということで作られたものであります。映画出演者もプロの俳優ではなく金光教の信奉者であったとのことですが、この映画フィルム全5巻の内3巻が、一昨年金光図書館で発見されたそうです。脚本はなかったのですが、この度その無声映画にセリフやピアノのバックミュージックなどをつけて再現し、今年になって放映されたのであります。先日の山陽新聞でも取り上げられたので、その記事を見られた方もおられるかもしれません。内容はおかげ話が元になっていますが、私にとっては内容もさることながら、

大正時代の大阪駅や金光駅や当時の汽車の中の様子とか、金光の里見川にかかる御影橋や大谷の街並みを変え興味深く見させてもらったようなことでもあります。

次の映画ロケは今から37年前の昭和58年、教祖100年大祭記念映画としてつくられた「おかげは和賀心にあり」であります。この映画は金光教の教祖様の45歳からの半生を描いたのですが、教祖役は鈴木瑞穂さん、奥様役は高田敏江さん、初代校長役を演じた西田健をはじめ、藤岡重慶、平田昭彦、仲谷昇、左時枝、西川ひかるなど実力派の俳優さんや女優さんが出演しています。

私が現在担当している高校3年生の宗教の時間では、この映画を鑑賞するのですが、1年間で約7回、もう70回以上もこの映画を見てきたことになりました。しかし全く飽きることはありません。その理由はその時で私自身が抱える問題が異なっており、その時々大きな指針を与えてくれる映画だからであります。今年はやつなみ保護者会のサークル活動の一つ「和賀心の会」でもこの映画を鑑賞されたと聞いていますし、金光町大谷の老人会でも鑑賞されると聞きました。ロケのほとんどは東京近郊にセットされたロケ地で行われたのですが、里見川や木綿崎山の教祖奥城、境内地などでも撮影が行われており、大変身近で親しみやすいものになっています。また江戸時代から明治初期にかけての備中地方の様子もわかり興味深いものがあります。

次の映画は平成元年（1989年）に公開された「黒い雨」です。「黒い雨」は原爆の恐怖と悲劇を描いた映画で、井伏鱒二の小説「黒い雨」の映画化で、最優秀作品賞を受賞しましたが、

矢須子に扮した女優の田中好子さんは、この映画で日本アカデミー賞最優秀主演女優賞を受賞し、監督の今村昌平さんは最優秀監督賞を受賞した作品であります。主なロケ地は広島県や岡山県でありますが、その病院の一面面では金光教本部の境内下にあった姫井病院もロケ現場になりました。姫井病院の向かいが前校長佐藤元信先生のお宅ですが、その前の道路でもロケが行われ、本校の卒業生なども患者役のエキストラに出演したという話を聞かせてもらったこともありました。女優の田中好子さんは、元人気アイドル「キャンディーズのスーちゃん」として、また女優さんとして活躍された方ではありますが、この映画「黒い雨」での演技が高く評価され、名女優としての道を歩むことになったと言われています。10年近く前にガンのため55歳という若さで亡くなりましたが、あの東日本大震災の1か月半後の葬儀で東日本大震災の被災者を気遣った生前の本人の肉声テープが流され、聞いた人の涙を誘い、多くの人に感動を与えたことは忘れられません。

次は、3年前に公開された「8年越しの花嫁」です。若い人なら誰でも知っている人気俳優の佐藤健さんと女優の土屋太鳳さんのW主演で、難病を抱える女性と彼女の回復を待ち続けた男性の奇跡の実話を元にした感動作です。岡山県での実話を映画化したということで、ほとんどのロケは岡山県で行われたのですが、そのロケ地の一つに選ばれたのが、瀬戸内海の素晴らしい景観が臨める金光町の北にそびえる遙照山であります。遙照山グラウンドの南の少しわかりにくい場所ではありますが、今その場所にはロケ地を記念した看板が立てられています。こ

つらえが変わっていたりしています。先週はアスファルトの上に砂をまき、土の道路の設定が出来ていたりして、何か毎日の通勤で「みゆき通り商店街」を歩くのが楽しみになっています。

その中でもさらにメインのロケは空き家をしつらえ替えた小料理屋で、昨日も今日も帰宅時間の夜にはロケが行われており、その場所を通ることは出来ませんが、阿部寛さんや薬師丸ひろ子さんの姿をちらっと遠くに見ることができたようなことでもあります。

私の友人や知人の中にもエキストラとして映画ロケに参加している人も多く、何か新型コロナウイルス感染症拡大で、とかく不安や心配が続き気持ちまで暗くなってしまうような中で、明るく楽しい話題が増えました。

ロケが開始されるとの情報が広がれば、見学に訪れる人が集まり、撮影の支障になるので、その情報は広げないようにとの事前の協力要請がありました。この「やつなみ」が保護者の皆さんや生徒たちの目に触れる時には、既にロケも終わっているのです、大丈夫だと思いつつ紹介しようなことであります。

それにしても映画製作には監督や役者さんとはもとより、照明、カメラ、美術、大道具、小道具、エキストラ、その他裏方など本当に大勢のスタッフが長い日数と時間をかけ、協力し、準備し、撮影するのだということに改めて実感しました。また同じ場面の撮影も練習、本番を何回も何回も繰り返し撮影していることにも驚きました。何か舞台裏を垣間見たことで、一層映画への興味や関心が強くなったような気がします。映画の公開はまだ

こが2人のプロポーズの場所となったそうで、瀬戸内海の美しい景色を堪能できる絶景のポイントです。浅口市長さんが、色々な場で「8年越しの花嫁」の映画のことやロケ地のことを紹介されているのを聞いて、その場所を訪れましたが、本当に素晴らしい眺めです。

最後に、今まさにロケの真最中である「とんび」という映画であります。この映画がこれまで紹介したものと違うのは、ロケの一面面を金光町で撮影するというのではなく、映画のメイクのロケ地が金光町大谷の門前町の商店街になっており、11月下旬から12月中旬にかけて、連日大規模な企画で撮影が行われています。物語は妻を亡くした不器用な父親役を主演の阿部寛さんが演じるただただ息子を愛し続けた30年間の物語で、苦労しながら息子を育て、立派に成長させていくという涙なくしては見られない感動的な物語だそうです。既に今年の初めにNHKの土曜スペシャルでは、主演の堤真一さんや小泉今日子さんなどが出演して放映されていますし、TBSも日曜劇場で、内野聖陽さんが主演をし、息子役には佐藤健さんなどが出演し放映されています。今そのテレビドラマを映画化するためのロケが続いているのであります。テレビの「とんび」を見た人たちは口を揃えて大変感動的なドラマだったと言われ、映画化にも大きな期待を寄せられています。私は朝晩の通勤時にこのロケ地を歩いています、(ロケ中は通行止めですが)いつの間にか大谷の商店街が備後の「みゆき通り」という商店街になっていたり、昭和時代の電気屋・不動産屋・靴屋・米屋・駄菓子屋・旅館・郵便局が次々に出来ていたり、本屋や酒屋や散髪屋のし

1年も2年も先になると思いますが、今から楽しみにしているところでもあります。皆さんも公開されたら是非ご覧いただいとしたいと思います。



塚原 敏政

今年から、金光学園に務めることになりました。塚原敏政と申します。所属は高校2年で1組と2組の副担任で生物を担当させていただきます。

私は今から10年前に金光学園を巣立ちました。当時は今の食堂の東側の古い建物が中学の建物でした。久しぶりに校舎を見ると当時の思い出がこみ上げてきました。中学校と野球に明け暮れた日々でした。また、先生になろうと決めたのも生徒を大切にする当時の先生の影響でした。「生徒は宝だ」が座右の銘です。

今までの教員生活で様々な場面に遭遇し、一緒に解決してきました。進路を悩んでいた生徒、部活と勉強の両立に悩んでいた生徒、人間関係でピンチだった生徒、全国大会を決めて一緒に泣き、笑った生徒。このような経験を生かして、皆さんの希望実現のお手伝いが少しでも出来ればと考え

ます。高校2年団に所属しており、7組の副担任をさせていただいております。授業は現代文を担当しており、部活動は中学校男子ソフトテニス部を担当しております。私は、学生時代を金光学園で過ごしました。「人をたいせつに、自分をたいせつに物をついに」という金光学園の合言葉は、私の人生の指針になっています。金光学園は、勉学はもちろん、人間教育にも力を入れてくださっており、思いやりの心や探究する姿勢は金光学園で過ごす中で培うことができた力だと思っています。そのような素晴らしい金光学園で、教師として教壇に立つことができることを心から嬉しく思っております。担当科目である現代文を通して、自分の気持ちを言葉にしたり、伝えたりする力をつけてほしいと思っております。また、教師として生徒一人一人と向き合いながら、生徒の夢や目標のための手助けができたらと思っております。一杯頑張りますので、どうぞよろしくお願



小森 那実

今年度より、金光学園に非常勤講師として勤務させていただきます。小森那実と申します。授業は高校1年、高校2年の書道を担当しており、部活動は書道部を担当しております。

私は、幼少期から書道教室に通い書道に親しみ、教師の魅力を感じておりました。そして、今年度より書道の教師として、金光学園に勤めさせていただきます。大変嬉しく思います。笑顔で挨拶することなどの礼節、諦めず粘り強く挑戦し続ける姿勢を大切に、生徒が充実した学校生活を送ることができるようサポートしていきたいと考えております。また、日本の伝統芸術である書道を一人でも多くの生徒に伝承し、書道に興味を持ち、楽しさを感じてもらえることができるきっかけ作りをしていきたいと思っております。どうぞよろしくお願



メタセコイヤ

### 定金肇先生 私学協会功労者表彰を受賞

定金肇先生が令和2年度岡山県私学協会功労者表彰を受賞されました。

「この度の受賞について、心から御礼を申し上げます。みなさまに支えられて、ここまで勤めることができました。これからも頑張りますので、よろしくお願



市川 智裕

今年度より常勤事務職員として勤務させていただきます。市川智裕と申

私は8年前に金光学園を卒業しました。この度縁をいただき、母校で勤められることを大変嬉しく思います。私は学生時代、部活動が毎日の楽しみでした。部活動で多くのことを学ばせていただき、それは今の私にとって大きな財産です。金光学園では、勉学や部活動以外にも委員会や行事が活発に行われ、たくさん学びの機会があります。生徒のみなさんには、ぜひ積極的にチャレンジしてほしいと思います。そのチャレンジ1つがきつと大切な思い出の1つとなります。



三宅 琴子

11月より、金光学園に勤めさせていただきます。三宅琴子と申

## 生徒入賞作品

### 入賞おめでとう

- ▼金光ライオンズクラブ  
国際平和ポスターコンテスト  
最優秀賞 中1 西山和志
- ▼第66回岡山県児童生徒書道展  
県教育長賞 中1 金光奏一  
ワコー賞 中3 大野沙恵
- ▼第18回永瀬清子賞  
佳作 中3 清水優花
- ▼第31回伊藤園お〜いお茶新俳句対象  
佳作特別賞 高2 山口祐紀  
「大の字で寝る猫の上桜舞う」
- ▼神戸親和女子大学2020作文コンクール 高校生部の部  
優良賞 高2 佐藤 成
- ▼後藤新平・新渡戸稲造記念 第22回全国高校生・留学生作文コンクール2020  
留学生の部 奨励賞 中藤洋文

## 「ここから通っています」 学園生の故郷

### 矢掛町

岡山県の南西部に位置する小田郡矢掛町。町の中央には小田川が流れ、豊かな自然環境を育んでいます。

矢掛町といえば、毎年11月に開催される「矢掛の宿場まつり大名行列」をご存じの方もおられるでしょう。旧山陽道の宿場町で、江戸時代には参勤交代で往来する大名が立ち寄りしました。約1000坪の規模を誇る旧矢掛本陣石井家は、大河ドラマで有名な天璋院篤姫も薩摩からの輿入れの途中に宿泊したと言われています。その屋敷は、ほとんど改変されることがなく今日に至っており、建物の豪壮さは勿論、当時の様子を物語る資料も貴重です。また、本陣から400mの



場所に住む、白壁に堅固な貼瓦が美しい旧矢掛脇本陣高草家は、大名に次ぐ家老などが宿泊したと言われ、その姿は当時のままだに保存されています。この本陣と脇本陣は、国の重要文化財に指定されています。本陣と脇本陣が対で指定されているのは全国でも矢掛町のみで、大変貴重と言われています。

このように、宿場町の懐かしい面影が残る矢掛町ですが、近年では古い建物を改修したおしゃれなお店も増えてきて、風情ある街並みは散策するだけでも楽しめます。また、2021年3月には、国道486号沿いに道の駅がオープン予定となっています。本陣、脇本陣がある商店街への「玄関」として来町される皆様をお迎え致しますので、ぜひ一度矢掛町に足を運んで頂けたらと思います。

さて、次に私自身の母校であり、息子も6年間通った山田小学校を紹介したいと思います。山田小学校の敷地内には、裏山から小川が流れ込み、子供たちは休み時間になると、川エビやサワガニ、オタマジャクシなどの生き物を見つけに行きます。また、幹周4mを超える大きなセンダンの木があり、毎年6月初旬になると、フクロウ科のアオバズクがやって来て産卵、子育てをし

ます。子供たちは、アオバズクの渡来を楽しみにしており、この季節になると朝夕センダンの木を見上げ、その姿を見守っています。



また、山田小学校にはお茶畑があります。昭和4年に種が蒔かれてから91年。戦争中、その戦禍をも越えて、茶畑は代々先生方や児童、地域の人々の手によって守られてきました。現在では、毎年5月に茶摘み祭りが行われ、学校行事の枠を超えて多くの地域の人々が参加して下さり、50kg以上の茶葉が摘み取られます。この茶葉は加工場でお茶にして頂き、様々な学校行事や地域の方々との交流の場で振る舞われています。

その名の通り、山々に囲まれた自然豊かな山田小学校で、郷土愛を育みながら学んだ息子ですが、今年からは憧れの金光学園生となり、先生方や仲間との素晴らしい出会いに恵まれ、新しい一歩を踏み出しました。これからの6年間、様々な経験を重ね、視野を広げ、充実した学園生活を過ごして頂けることを期待しております。どうぞよろしくお願い致します。

中1の母 中島 奈美

### 備前市

岡山県の南東部に位置する備前市は、中部に片上湾を擁し、西端には岡山県三大河川の1つの吉井川が流れています。お隣の兵庫県まで車で15分、人口3万人余りの田舎町です。岡山まで車で小1



時間、金光学園までは電車を乗り継いで1時間30分程掛かります。毎日よく頑張っているなど感心しています。

ここ備前は耐火煉瓦の製造や牡蠣など水産業が主な産業である一方、日本遺産に指定されている日本で最も古い庶民の学校旧関谷学校や瀬戸内海国立公園の日生諸島、八塔寺ふるさと村、B級グランプリで一躍有名になった日生の牡蠣おこなど観光の街でもあります。

この原稿を書いている私は備前市日生町の出身。小学校の頃は港町の路地から路地を走り回っていたのですが、小さな町のあちこちにた焼き屋やお好み焼きのお店があり、今思えば何故あんなに沢山のお好み

焼き屋があったのか不思議で仕方ないので。そのお店が牡蠣おこの店となり、牡蠣シーズンの冬には多くの人が訪れ大変な賑わいを見せています。ちよつと面白い所では、浦伊部に太閤門という史跡があります。安土・桃山時代に羽柴秀吉が備中高松の城攻めの帰途に立ち寄る約束をしたため、豪商の法悦が御殿と門を新築したので、本能寺の変の為立ち寄りなかつたそうです。その門の跡が残っています。

備前市の中で特に有名なのは、瀬戸・信楽・常滑・越前・丹波と共に日本六古窯の1つであり、その中でも最も古く平安・室町・桃山時代から千年以上の歴史がある備前焼です。窯元は100軒以上あり、就業人口は2千人以上でこの街の中心的産業であると共に観光の中心となっています。全国的にも有名なのでご存じの方も多いのではないのでしょうか。

備前焼の里、伊部を散策すると備前焼で作られた案内板やレンガ造りの赤い煙突が目立ちます。その窯から作り出される作品は、一つとして同じ物はありま



せん。絵付けもせず、釉薬も使わずそのまま焼いているので土味が良く表れている焼き物です。千数百度の炎の力によって、七ヶ十昼夜かけてじっくりと焼き締めます。炎と松割木の変化で、胡麻、棧切り、緋だすき、牡丹餅など変化に富んだ景色が現れます。そこが備前焼の一番の魅力です。



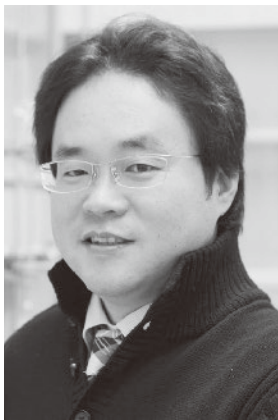
JR伊部駅の周りに多くの窯元が集まっています。年に1度10月には備前焼祭りも開催されます。この日はやはり普段静かな田舎町が大変な賑わいをみせます。1日平均の乗車数が400人余りのJR伊部駅が祭りの2日間だけは10倍以上の利用客になり、臨時列車も走ります。街は2日間で10万人もの観光客が訪れ、家を1歩出ると人の波の大都会に変わるので。残念ながら今年のはコロナの影響で中止になってしまいましたが、是非1度訪ねて頂いて、ご自身のお気に入りの一品を見つけて頂ければと思います。

高1の父 松本 浩一



## 学園はすばらしい学び舎 〈新型コロナ診断システムの開発まで〉

栗原 正靖 (高42回卒)



金光学園には中学から6年間お世話になりました。福山駅で福塩線から山陽本線に乗り継ぎ、1時間半ほどかけて通学しました。中学2年生のときからバレーボール部(顧問・亀山精二先生)に入っていたので、土日はもとより夏休みも冬休みも部活動に没頭する毎日でした。今でこそ、全国大会の常連校になっていま

すが、当時はドが付くほどの弱小チームで、亀山先生もさぞご苦労されたかと思えます。先輩も後輩も県内ベスト4や8に入る実績を残しましたので、丁度、端境期だったわけですね。弱小にもかかわらず、夏合宿には、大勢の先輩たちが帰郷して熱心に指導して下さいました。キツかったけど、本当に楽しかった。結果は残せませんでした。友達はたくさんできました。ダメでも一生懸命やることを学びました。とはいえ、取り組む対象が好きなことであるという前提はあるように思います。結局、6年間の学園生活を通して学んだ最も重要なことは一人をたいせつに、自分をたいせつに、物をたいせつに「だつたように思います(受験問題には出てきませんがね!)」。

勉強(探求)は好きな方だったと思いますが、受験勉強はイマイチやる気がせず、無理せず入れた地元の岡山大学工学部に進学しました。大学でも体育会のバレーボール部に入部し、相変わらず部活三昧の日々でしたが、3年生くらいになると専門課程の課題で忙しくなり、4年生で研究室に配属されると、生活の中心が部活から研究室に移りました。やっている内容は、部活と研究室とは全く違いますが、課題への取り組み方や人間関係のつくり方は共通するものがあるように今でも感じています(どんな仕事もひとりではできません)。

探求好きが高じて、結局、バイオ分析化学という学問領域を専門とする科学者になり、今に至るわけです。一昨年度(2018年)の4月に群馬大学理工学部から日本大学文理学部に移籍しましたが、この間、感染症や癌、生活習慣病など疾患の目印になる物質(バイオマーカー)を簡単に検出する方法(SATICA法)の開発に取り組んできました。その中で、東京医科大学医学部主任教授の河島尚志先生とインフルエンザの変異をSATICA法で簡便に検出するシステムの開発を

行っていました。インフルエンザなどの感染症では、抗ウイルス薬を投与するとそれが効きにくくなる変異ウイルスがしばしば発生することが知られており、それを市中のクリニックなどで迅速に診断できるようにするものです。発熱をともなう風邪を患ったときに多くの方が経験される抗原検査では、ウイルスのタイプ(型)は判定できません。SATICA法はそれと可能にする技術です。

中国武漢における新型コロナウイルスの発生は昨年末ごろから報道などで耳にしていますが、年が明けた頃から、どうやらそれが大変にタチの悪いウイルスであることが広く認知されるようになりました。ウイルスの遺伝子配列が公開されたこともあり、私たちは直ちに、SATICA法に基づく新型コロナ診断システムの開発に取り掛かりました。そして3月には臨床検体を用いた検証に入りました。これまでの検証で、現在、確定診断に用いられているPCR検査の感度に匹敵し、検体採取から25分程度で目視にて感染の有無を判定できることが確認されています。目視ではなく、検出器などの装置を用い

れば、判定にかかる時間もずっと短縮され、検体採取から10分以内に検査結果を知ることができるようになると期待しています。実用化されれば、一日何万もの人が出入りする国際空港における水際対策や、スタジアムやイベント会場などにおける入場チェック、日々感染リスクに晒されている医療従事者などに対する感染モニタリングなどに活用することが可能となります。

この寄稿が公開された頃には実用化を果たせているよう製薬企業などと鋭意開発を進めて参ります(令和2年6月30日)。

### 略歴

- 1987年 金光学園中学校卒業
- 1990年 金光学園高等学校卒業(高42回卒)
- 1994年 岡山大学工学部生体機能応用工学科卒業
- 1996年 岡山大学大学院工学研究科(修士課程)修了
- 1999年 岡山大学大学院自然科学研究科(博士課程)修了、博士(学術)取得

この間、  
科学技術振興機構・戦略的創造研究推進事業(さきがけ)「構造機能と計測分析」領域・さきがけ研究者(兼任)(2004-2008年)  
文部科学大臣表彰若手科学者賞(2009年)

- 1999年 岡山大学工学部・非常勤講師
- 2000年 米国バージニア大学・博士研究員
- 2001年 群馬大学工学部応用化学科・助手
- 2007年 群馬大学大学院工学研究科・助教
- 2009年 群馬大学大学院工学研究科・准教授
- 2018年 日本大学文理学部化学科・教授

# やつなみ 保護者会のページ

## 指導部

部長 馬場 優子

指導部は、今年度7名で活動していきます。

主な活動は研修会への参加、保護者地区会の開催に関わることで、岡山県広域特別補導への協力参加です。

地区会は新型コロナウイルスの影響により例年の7月から11月へ開催延期となりました。

私の地区では、11月7日に地区会を開催し、地区担当の先生方による学校近況報告をして頂き、その後、保護者同士の意見交換を致しました。休校中のオンライン授業、学校再開後の人間関係、生活面、学習面、部活動、朝晩の自転車通学の不安など様々な話題が出て学年を超えた有意義な場となりました。

今後も地区会をきっかけに保護者交流を深めていただけたらと思っております。

友愛セールの開催とそれに向けての準備です。

友愛セール例年では、ご家庭や協賛企業様からの寄付品によるバザーや手作り品の販売チャリティー販売、物品の予約販売など様々な商品をご用意しております。

今年はコロナの影響によって規模縮小となり、手作り品の販売と予約販売のみと変更になりました。

今年は、いつもの金光ベアの他に、目玉としてデイベアに金光学園のミニ制服を着せて販売する予定です。とってもかわいいので楽しみにして下さい。

手作り会については、皆様コロナ流行の中少しでもご協力くださる方が多く、感染予防に徹して開催させていただいております。

コロナによって学校に来校される機会が少ないので、この手作り会を通して子ども達の学年に関わらず、保護者間での交流ができる事も大変喜ばれています。

ほつま祭前日当日は庶務部総出で準備を行います。今年は例年通りとは違いいろいろな変更があると思いますが、充実した楽しい友愛セールになるよう庶務部

広域補導の協力としては例年地区の方、学園の先生と一緒に下校時の列車に乗車してのマナー指導や金光駅前及び周辺での指導、補導にあたっておりますが、今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため保護者は参加せず先生方をお願いしております。

今年度はPTA活動にも様々な影響が出ておりますが、学校と保護者がしっかりと連携を取り子供達の成長を支援していきたいよう協力して参ります。

一年間どうぞよろしくお願い致します。

## 教養部

部長 片山 尚子

今年度の教養部は5名の部員で活動していきます。主な活動内容は、年3回発行される「やつなみ」の保護者ページ作成、研修旅行の企画・研修会の参加です。

しかし、今年度は新型コロナウイルスの影響で活動内容がかなり変更されました。まず7月号の「やつなみ」は発行しませんでした。研修旅行も中止になりました。毎春秋に行われる研修旅行は、保護者同志の交流を深めるための大きな行

一丸となって頑張っておりますので、今年度も皆様のご支援ご協力をよろしくお願ひいたします。

## コロナに負けるな 3年ぶりの晴れの体育会

中3 保護者

秋晴れの中、新型コロナウイルス感染対策を十分に行いながら開かれた中学体育会。昨年度までとは違い、多くの変更点があった中、開催できた事を心より嬉しく思います。そして、そんな中でも、競技・応援合戦に力を入れ一生懸命頑張る生徒さんたちに心を打たれて感動しております。

各競技では、一人一人の個性を生かし、自分の役割をしっかりと果たす事ができていました。友と共に喜び合い、時には慰めあう、そんな素晴らしい場面を見る事ができました。

また、応援合戦では今年度は毎年あるマスコットがありませんでした。しかし、それを感じさせず、とても短い期間での仕上がりとは思えない程、どのクラスもとても高いクオリティーでした。全員で作りに上げた作品を見ることができ感動もひとしおでした。

事であり、私達も楽しみにしておりました。子供達の行事が中止や延期になっている今は、仕方ないことだと思えます。

「やつなみ」では、生徒や保護者の記事が多数掲載されており、学園教育の様子を知ることが出来ます。感染対策を十分行いながら、体育会やほつま祭も開催することができました。その原稿をお願いした方々、ありがとうございます。3月発行の「やつなみ」では、部活動や「卒業」をテーマにした内容を考えておりますのでご協力の程、よろしくお願ひします。

活動内容は縮小されましたが、教養部の活動を通して学園のことをより知れることは私にとつて良い経験になっていきます。この様な大変な状況の中ではありますが、少しでも保護者の方に喜んでもらえる様、メンバー5名力を合わせて希望をもつて活動して参りますのでよろしくお願ひいたします。

## 庶務部

部長 山木 陽子

今年度の庶務部は、29名で構成されています。主な活動内容は、ほつま祭での

娘が入学し、3回目の体育会ですが、初めて当日を晴れて迎えることができました。それは、新型コロナウイルスにも負けない皆さんの強い思いと輝く笑顔があったからだと思います。今年の体育会はとつても特別なものとなりました。最後に、体育会を開いてくださった先生方と、ご尽力下さいました皆さま、本当にありがとうございました。

## ほつま祭を終えて

中2 保護者

本年度は人類史に残るであろうコロナウイルスの影響により、岡山県内のみならず日本各地、世界各国で様々なイベントや催し物が自粛や中止という状況で、私たち執行部は学園の意向を最優先しつつ、子供達、地域の皆様、保護者の皆様に最大限できる限りの安全策を考慮し開催を後押しするというスタンスで取り組んでまいりました。

私は最初、子供がまた中学2年生で「ほつま祭」があるんだあ程度で認識しかなく漠然とご指示いただいたことに対応する感じでした。

開催に向けて幾度か学園に足を運び、

資料等を作成して行く中で、金光学園の保護者の皆様と触れ合い、皆様が子供達や学園に対して非常に前向きで温かい姿勢でおられることに感激することが多々ございました。

特に金光ベアの製作においては多くの皆様の時間と手間を紡いであんなに愛らしく、クオリティーの高いモノを作り上げる皆様のパワーに感動しました。残念ながら今年度は私のもとに迎えることができませんでしたが、来年度はぜひ我が家に迎えたいと考えております。

今年度は子供達と地域や保護者の皆様の安全を最優先させるため、規模を大きく縮小せざるを得ませんでした。近い将来はつまま祭が盛大に開催できることを心待ちにしたいと思っております。

## 高校体育会

### 高1 保護者

まず、このコロナ禍の中で、高校体育会が無事開催できたこと、感染対策を実施し保護者の観覧を可能にしてくださいだったことを校長先生をはじめ、すべての先生方、職員の方に感謝いたします。ありがとうございました。

いよいよ始まった体育会。テントいっぱい広がって立ち上がり応援する3年生。3年間ないしは6年間の学園生活最後の大きな行事として一つ一つの競技を精一杯応援し、思い出に刻もうとしているかのように見え、プログラムの最初から目頭が熱くなりました。

競技が進むにつれどの学年も白熱してきます。下級生のゴールにも拍手で応援する3年生。転んでもすぐに立ち上がり最後まで走り切る姿……。親は子どもが「うまくいっている」時に喜ぶだけではなく、うまくいかない、つまづいた時、もう一度、と自分で立ち上がっていく姿に感動と喜びを感じるのだな、と強く思いました。

体育会の中で上級生の下級生に対する思いやり、先生方との心からのつながり、友だち同士の支え合いを見ることが出来、これから大人になっていく子どもたちにとって「心の基地」となる場所がここにあるのだな、と実感し安心した一日でした。最後になりましたが、子どもたちの生き生き、さらさらした姿を見ることが出来たととても幸せな日がありありがとうございました。

	部長	副部長
指導部	馬場優子	山下ますみ
教養部	片山尚子	岡本こずえ
庶務部	山木陽子	橋本理美

**第1回全役員会・評議員会** 7月27日(月) 全役員会では、全役員と評議員の任務内容の確認、年間予定等について説明があった。評議員会では、各専門部役員の見直し、各部長・副部長が選任された。(敬称略) その後、2年度活動方針、予算案について検討し承認された。

**第2回評議員会** 8月25日(火) 地区会、友愛セール、オープンスクールの協力、各専門部の活動内容の検討、金光教大祭奉仕等について協議した。

**やつなみ保護者会地区会** 今年度は、11月に全23地区の中、5地区で地区会を開催した。

**オープンスクール手伝い** 今年度は8月29日(土)のオープンスクールで、三役が来場者のなんでも相談コーナーの担当としてお手伝いをした。

**友愛セール** 今年度の友愛セールは予約販売のみを実施した。9月11日には準備

12・13日にはほつま祭の友愛セール予約販売とハンドクラフトサークルの作品販売を、記念講堂で行った。今回、手作り作品の販売をオンラインによる予約で初めて行い、大きな成果を残した。(収支決算については別項参照)

**金光教大祭奉仕** 10月4・7・10日の3日間に行われた生神金光大神大祭に役員が奉仕した。また、12月13日に行われた布教功労者報徳祭にも役員が奉仕した。いずれも全国の参拝者の方々の接待奉仕をして大変感謝された。

**第3回評議員会** 11月27日(金) 開催予定の評議員会は、新型コロナウイルス感染症再拡大のために中止された。

- 諸会合**
- 9月9日 幼小中P指導者人権教育研修会。オンライン。上迫会長参加。
  - 11月7日 泉高P連会長研修会。上迫会長参加。
  - 11月17日 泉高P連指導者研修会。新谷監事参加。

## 【R2年度友愛セール 決算中間報告】

収入	予約販売売上	812,645
	友愛セール売上追加、寄付等 <sup>*1</sup>	55,950
	合計	868,595
支出	手作り作品材料他諸経費	100,475
	友愛セール用物品購入費	0
	合計	100,475
収支	(収入-支出)	768,120
使途	赤十字事業資金へ <sup>*2</sup>	20,000
	社会福祉会歳末(歳末助け合い)へ <sup>*2</sup>	50,000
	公益財団法人日本ユニセフ協会へ	3,000
	合計	73,000
残高		695,120

<sup>\*1</sup> 福山第1・3地区からの寄付 50,000  
予約販売の追加売上 5,950

<sup>\*2</sup> 例年寄付をさせていただいている団体



令和2年度は、新型コロナウイルス感染症のために、多くの保護者会活動が中止を余儀なくされた。やつなみ保護者会の校内での活動は、7月1日(水)から開始された。

**総会** 4月10日(金)に令和元年度第6回評議員会中止及び書面報告と承認のお願い文書を全評議員に配付。その後、5月2日(土)に令和2年度総会中止及び書面協議のお願い文書を全会員に配付した。その結果、各部からの会務報告、令和元年度会計収支決算報告、役員数の変更が承認された。同時に役員改選も行われ、新三役が選任された。(敬称略)

新三役		
会長	副会長	監事
上迫 豊	小野 泰正 北村和章 丸本 栄作	高橋 洋末
	川田 妙子 甲田 博豊 山下 洋子	新谷 久子

# 2021年 友愛セールご協力の御礼

保護者の皆様におかれましては、日頃よりやつなみ保護者会の活動に多大なるご理解とご協力を賜り、心より御礼申し上げます。

今年度の保護者会については、年初からの新型コロナウイルス感染症の拡大の中、4月の保護者総会も書面決議となり、また例年であれば5月に開催される「評議員会・全役員会」も感染拡大防止のため、ようやく開くことができたのは7月末になってのことでした。

その時点では、9月12日・13日に開催されるほつま祭についても、どのような形で行うことができるのか、はっきりとは判断できない状況でした。

そのような状況下、「できることをやろう」ということで、今年度の友愛セールについては、遊休品・協賛品などの販売は密を避けるために中止したものの、予約販売品と手作り作品の販売を行うこととなりました。

手作り作品の販売については、WEBによる事前予約という初の試みで、この仕組みを実行に移していただいた山本教頭先生には心より感謝しております。また、準備期間が限られる中、素晴らしいチームワークで金光ペアなど素敵な作品を仕上げていただいた保護者の皆様、そして、積極的に購入に協力いただいた保護者の皆様にも本当にありがたい気持ちでいっぱいです。

先日、岡山県高等学校PTA連合会の会長研修会が開催され、コロナ禍の中での保護者会活動の情報交換をする機会がありました。その中でもバザーをWEBで行った例は極めて少なく、他校の参加メンバーから賞賛の声をいただきました。

考えてみればこれも、緊急事態宣言・学園の休校という前例のない厳しい状況下、全国的にもかなり早い段階でZOOMによる授業をされるなど、校長先生をはじめ諸先生方の、生徒のため、「厳しい状況下でもその時の最善手を探し、それを速やかに実行する」姿勢の現れだと思えます。

今回の友愛セールは前年とは大きく異なる形となりましたが、それ故にこそWEBの活用など、今後の運営に向けて参考にしていくべきものもあったのではないかと感じています。

最後に、本紙面をお借りして、今年度の友愛セールにご尽力いただきました全ての皆様に、心より感謝・御礼を申し上げます。本当にありがとうございました。

金光学園やつなみ保護者会 会長 上迫 豊

# 金光学園やつなみ保護者会 会長就任挨拶



金光学園やつなみ保護者会  
会長 上迫 豊

令和2年度金光学園やつなみ保護者会会長を務めさせていただくこととなります。上迫豊と申します。保護者の皆様・学園関係者の皆様には日頃より本保護者会活動に、多大なるご理解とご協力を頂き、この場をお借りして心より御礼申し上げます。

とはいえ、今年の保護者会活動については、既に4月の総会が開催できず書面決議になるなど、例年のように進められない状況となっております。

今年1月14日にWHOが新型コロナウイルスを確認、1月16日に国内での初めての感染の確認、1月30日にWHOが「国際的な緊急事態」を宣言、2月13日に国内で初めての感染者の死亡、3月24日に東京五輪・パラリンピックの1年延期が決定、4月7日には7都府県に緊急事態宣言、4月16日には全国に緊急事態宣言が発出……と時系列的に書いても、この数ヶ月で以前には想像すらできなかった出来事が立て続けに起こっており、残念ながら金光学園でも4月11日から休校をやむなくされております。

そして、5月半ばは現在、この状況がいつまで続くのか、全く予想ができない状況です。

最近、ビジネスの世界では「VUCA（ブーカ）という言葉がよく聞くようになりました。VUCAとは、Volatility（変動性）、Uncertainty（不確実性）、Complexity（複雑性）、Ambiguity（曖昧性）の頭文字をとって作られた造語で、現在の予測不能な経済環境を表わす言葉です。

新型コロナウイルスの感染拡大は、保護者である私たちがいる経済環境だけでなく、子どもたちの学校環境までもを一気にこのVUCAの世界に投げ込んでしまったように思えます。

この状況下で保護者会活動をどう進められるのかは全く見えておりませんが、例年通り活動を進められないとしても、保護者としてこの状況下でどのように振る舞うのか、「子どもに背中を見せる」ことはできます。

この新型コロナウイルスによるパンデミックがいつか終息したとしても、私たちの子どもを待ち受ける世界はVUCA的なものです。感染の拡大防止を必須条件とする中で、「何ができるのか」を考え、最善を尽くす。状況によっては前例を大胆に変えること、場合によっては止めることも厭わない柔軟性を持つ。マスコミの情報だけに流されず、より多くの情報源から情報を集め、それを元に自分たちの頭で考え、判断する。出来るならば、その上で、流動的に変化する状況と、それに逐次対処していく行為そのものを楽しむ。

これがVUCA的世界を生き抜く一つの考え方であれば、現在の状況下での保護者会活動を進める場合にもこれを適用したいと思えます。

この先の状況を読める人間はどこにもいません。臨機応変どころか、右往左往と朝令暮改的なお願いごと・依頼ごとを繰り返すなど、ご迷惑をおかけすることなども多々あるかもしれません。上記の事情をご理解の上、どうぞ一年間よろしくお願ひいたします。

# 令和元年度決算の概要

学校法人金光学園

令和元年度の決算が、5月27日に開かれた法人評議員会ならびに理事会で承認されました。  
 学校法人会計の計算書類は、資金繰りの状態を示す「資金収支計算書」、経営状態を示す「事業活動収支計算書」、財産状態を示す「貸借対照表」により表示し、私立学校法第47条及び学校法人会計基準第4号に定められた規則に基づき作成したものが、以下の「財務三表」です。

## 貸借対照表

令和2年3月31日

資産の部		負債の部	
科 目	本年度末	科 目	本年度末
固定資産	2,281,905,870	固定負債	554,051,642
有形固定資産	2,161,593,156	流動負債	217,123,419
特定資産	120,000,000	<b>負債の部合計</b>	771,175,061
その他の固定資産	312,714	<b>純資産の部</b>	
流動資産	86,955,891	科 目	本年度末
<b>資産の部合計</b>	2,368,861,761	基本金	3,466,647,206
		繰越収支差額	△ 1,868,960,506
		<b>純資産の部合計</b>	1,597,686,700
		<b>負債及び純資産の部合計</b>	2,368,861,761

## 資金収支計算書

収入の部		支出の部	
科 目	決 算 額	科 目	決 算 額
学生生徒等納付金収入	614,288,090	人件費支出	822,893,449
手数料収入	5,024,400	教育研究経費支出	100,407,515
寄付金収入	36,797,154	管理経費支出	71,083,787
補助金収入	451,804,143	借入金等利息支出	2,782,820
付随事業・収益事業収入	980,800	借入金等返済支出	193,880,000
受取利息・配当金収入	586,189	施設関係支出	108,000
雑収入	53,655,540	設備関係支出	11,223,303
借入金等収入	100,000,000	資産運用支出	90,612,848
前受金収入	65,340,000	その他の支出	44,844,885
その他の収入	81,739,488	資金支出調整勘定	△ 8,456,259
資金収入調整勘定	△ 73,158,793	翌年度繰越支払資金	43,173,996
前年度繰越支払資金	35,497,333		
<b>収入の部合計</b>	1,372,554,344	<b>支出の部合計</b>	1,372,554,344

## 令和元年度 収支決算

金光学園やつなみ保護者会

### I. 一般会計

収入の部		決算額		差 異	摘 要
科 目	予算額	決算額	差 異	摘 要	
1 会 費	4,474,560	4,465,920	8,640	月額 P@320、 T@400	
2 繰越金	1,477,336	1,477,336	0		
3 寄付金	20,000	20,000	0	大祭直会	
4 雑収入	40,000	23,712	16,288	預金利息、笠岡補導センター補助、他	
合 計	6,011,896	5,986,968	24,928		

支出の部		決算額		差 異	摘 要
科 目	予算額	決算額	差 異	摘 要	
1 指導部費	505,000	488,813	16,187		
A 地区会費	300,000	285,813	14,187	24地区	
B 生活指導費	5,000	3,000	2,000	広域補導	
C 通信連絡費	200,000	200,000	0	家庭連絡電話料	
2 教養部費	3,695,000	3,265,188	429,812		
A 機関誌費	2,700,000	2,548,960	151,040	やつなみ254号～256号	
B 教養費	995,000	716,228	278,772		
(1) 研修費	650,000	583,028	66,972	総会講演・研修旅行、他	
(2) 教養費	255,000	43,200	211,800	教養シリーズ原稿起し	
(3) 講習会費	90,000	90,000	0	やつなみサークル補助	
3 庶務部費	1,630,000	1,156,583	473,417		
A 負担金	400,000	332,990	67,010	私中高父母の会負担金、他	
B 名簿刊行費	0	0	0	学園名簿	
C 慶弔費	500,000	354,800	145,200	卒業式、弔慰、餞別	
D 会議費	150,000	99,119	50,881	総会、評議員会、役員会、食堂試食	
E 旅費	100,000	91,220	8,780	私中高P連総会、大祭湯茶接待、他	
F 事務費	100,000	60,800	39,200	諸消耗品代等	
G 特別委員会費	350,000	188,464	161,536	全国・中国地区私中高父母の会等	
H 雑費	30,000	29,190	810	標語パネル協賛金、振込手数料他	
4 予備費	181,896	0	181,896		
合 計	6,011,896	4,910,584	1,101,312		

### 1. 一般会計収支

収入総額	5,986,968
支出総額	4,910,584
差引剰余金	1,076,384

◎剰余金処分 一般会計剰余金1,076,384円は、次年度一般会計に繰り越す。

## 事業活動収支計算書

(単位：円)

科 目		決 算 額	科 目		決 算 額
教育活動収入の部	学生生徒等納付金	614,288,090	教育活動支出の部	人件費	815,009,744
	手数料	5,024,400		教育研究経費	175,087,785
	寄付金	36,797,154		管理経費	72,964,515
	経常費等補助金	451,577,143			
	付随事業収入	980,800			
	雑収入	53,705,675			
教育活動収入計		1,162,373,262	教育活動支出計		1,063,062,044
<b>教育活動収支差額</b>					99,311,218
教育活動外収入の部	受取利息・配当金	586,189	教育活動外支出の部	借入金等利息	2,782,820
	教育活動外収入計	586,189		教育活動外支出計	2,782,820
<b>教育活動外収支差額</b>					△ 2,196,631
<b>経常収支差額</b>					97,114,587
特別収入の部	その他の特別収入	303,846	特別支出の部	資産処分差額	3,790,681
特別収入計		303,846	特別支出計		3,790,681
<b>特別収支差額</b>					△ 3,486,835
〔予 備 費〕					
基本金組入前当年度収支差額					93,627,752
基本金組入額合計					△ 47,158,777
<b>当年度収支差額</b>					46,468,975
前年度繰越収支差額					△ 1,868,960,506
<b>翌年度繰越収支差額</b>					△ 1,822,491,531
(参考)					
事業活動収入計					1,163,263,297
事業活動支出計					1,069,635,545

支出の部

科 目	R2予算額	R1予算額	R1決算額	摘 要
1 指導部費	455,000	505,000	488,813	
A 地区会費	300,000	300,000	285,813	23地区
B 生活指導費	5,000	5,000	3,000	広域補導
C 通信連絡費	150,000	200,000	200,000	家庭連絡電話料
2 教養部費	3,045,000	3,695,000	3,265,188	
A 機関誌費	2,700,000	2,700,000	2,548,960	やつなみ257号～259号
B 教養費	345,000	995,000	716,228	
(1) 研修費	300,000	650,000	583,028	研修旅行、他
(2) 教養費	0	255,000	43,200	
(3) 講習会費	45,000	90,000	90,000	やつなみサークル補助
3 庶務部費	1,430,000	1,630,000	1,156,583	
A 負担金	400,000	400,000	332,990	私中高父母の会負担金、他
B 名簿刊行費	0	0	0	学園名簿(R1年度から発行しない)
C 慶弔費	500,000	500,000	354,800	卒業式、弔慰、饗別
D 会議費	100,000	150,000	99,119	総会、評議員会、役員会、食堂試食
E 旅費	100,000	100,000	91,220	私中高P連総会、大祭湯茶接待、他
F 事務費	200,000	100,000	60,800	諸消耗品代等、封書送料
G 特別委員会費	100,000	350,000	188,464	
H 雑費	30,000	30,000	29,190	
4 予備費	479,904	181,896	0	
合 計	5,409,904	6,011,896	4,910,584	

Ⅱ. 特別会計

収入の部 (単位：円)

科 目	R2予算額	R1予算額	R1決算額	摘 要
1 特別会費	7,980,480	8,396,640	8,378,280	月額 @680
2 繰越金	2,255,205	727,716	727,716	
3 雑収入	0	0	9,150	
合 計	10,235,685	9,124,356	9,115,146	

支出の部

科 目	R2予算額	R1予算額	R1決算額	摘 要
1 教育後援費	10,235,685	9,124,356	6,859,941	スポーツ振興センター7共済掛金、生徒用コピー機、生徒会派遣費補助、事業積立金会計への積立等

《教育後援費の内訳》

①日本スポーツ振興センター共済掛金	1,300,000円
②高P連賠償責任補償制度加入掛金	412,000円
③私学ボランティア基金会費	20,000円
④私学ボランティア基金特別会費	10,000円
⑤高校図書室コインコピー機リース料	110,000円
⑥メールメイトシステム利用料(R3年度分)	110,000円
⑦生徒会派遣費補助	6,000,000円
⑧事業積立会計へ	2,000,000円
⑨予備費	263,685円
	10,235,685円

Ⅲ. 事業積立会計

収入の部 (単位：円)

科 目	R2予算額	R1予算額	R1決算額	摘 要
1 積立金	1,000,000	1,000,000	0	特別会計より
2 繰越金	1,000,000	1,000,000	1,000,000	
合 計	2,000,000	2,000,000	1,000,000	

Ⅱ. 特別会計

収入の部 (単位：円)

科 目	予算額	決算額	差 異	摘 要
1 特別会費	8,396,640	8,378,280	18,360	月額 P@680
2 繰越金	727,716	727,716	0	
3 雑収入	0	9,150	△9150	マスクingtテープ売り上げ
合 計	9,124,356	9,115,146	9,210	

支出の部

科 目	予算額	決算額	差 異	摘 要
1 教育後援費	9,124,356	6,859,941	2,264,415	スポーツ振興センター共済掛金、生徒用コピー機、生徒会派遣費補助等

《教育後援費の内訳》

①日本スポーツ振興センター共済掛金	1,213,420円
②高P連賠償責任補償制度加入掛金	412,000円
③私学ボランティア基金会費	11,390円
④私学ボランティア基金特別会費	10,000円
⑤高校図書室コインコピー機リース料	104,976円
⑥メールメイトシステム利用料(R2年度分)	112,200円
⑦生徒会派遣費補助	4,925,755円
⑧7/20高校野球応援バス代プラス	70,200円
	6,859,941円

2. 特別会計収支

収入総額	9,115,146円
支出総額	6,859,941円
差引剰余金	2,255,205円

◎剰余金処分 特別会計剰余金2,255,205円は、次年度特別会計に繰り越す。

Ⅲ. 事業積立会計

収入の部 (単位：円)

科 目	予算額	決算額	差 異	摘 要
1 積立金	1,000,000	0	1,000,000	教育後援費より
2 繰越金	1,000,000	1,000,000	0	
合 計	2,000,000	1,000,000	1,000,000	

支出の部

科 目	予算額	決算額	差 異	摘 要
1 事業費	0	0	0	

3. 事業積立会計収支

収入総額	1,000,000円
支出総額	0円
差引剰余金	1,000,000円

◎剰余金処分 事業積立会計剰余金1,000,000円は、次年度事業積立会計に繰り越す。

令和2年度 予算

金光学園やつなみ保護者会

I. 一般会計

収入の部 (単位：円)

科 目	R2予算額	R1予算額	R1決算額	摘 要
1 会費	4,283,520	4,474,560	4,465,920	月額 P@320、T@400
2 繰越金	1,076,384	1,477,336	1,477,336	
3 寄付金	20,000	20,000	20,000	大祭直会
4 雑収入	30,000	40,000	23,712	預金利息、笠岡補導センター補助、他
合 計	5,409,904	6,011,896	5,986,968	



## みんなと共に

### 1組 久一 優生

ぼくは、早く中学生のスタートが切りたいと楽しみにしていたので、今こうして中学校生活が始まり、色々な事へのエネルギーがみなぎっている。だから全ての事に一生懸命に取り組んでみたいと思っている。

まずは、新しい環境の中で自分の事も知ってほしいし、みんなの事もたくさん知りたい。木の根の様に「太く」「広く」「しっかりと」と友達の輪を広げていきたい。そ

れが深まると何でも言い合えて助けあえる笑顔の絶えないクラスになれるような気がする。

そして、ぼくの目標は「文武両道」で、勉強も部活も一生懸命頑張りながらも充実感を感じられるような取り組み方をしたいと思う。

そんな中学校生活を過ごせるかどうかは自分にかかっている、何でも楽しみながら失敗を成功に変える力や「できない」を「できる」にする力をどれだけ出せるかなのだと思う。全ては経験だと思おうのでたくさんの方にチャレンジして自分を磨いていきたいと思う。その中で友達や先生と思いを共有しながら、ひとつひとつの事を共に行っていく喜びや楽しさをめいっぱい感じたい。「くやしき」「楽しさ」もみんなと味わうから意味があるのではないだろうかと思っている。それは、クラスの中でも友達との関係の中でも部活のなかでも。

### 充実した学園生活にするために

#### 2組 香西 和佳

今日から私は中学生。たくさんのお話を学んでたくさんの方と出会えたらいい

なと思っています。

まずは自転車を通る道。危ない道があります。そこを通るとき私は左右をよく見て歩きながら渡ります。中学生になってもここは気をつけていきたいです。

次に勉強についてです。金光学園に入學すると、他の中学より勉強がもっと大変になると姉から聞きました。だから私は授業でわかりやすくノートを書いて、わからなかった問題などは姉のように先生に尋ねていこうと思います。でも勉強だけするのはなく、中学になると部活が入るので、部活も勉強も両立できるようにしたいです。

6年生の時、私の担任の先生が「かわいがられる人になれ」とおっしゃっていました。嫌なことがあってもすぐにマイナスな発言をせずに、何でも頑張ったら良いということ。私はすぐにあきらめたり、マイナスな発言はあまりしないで、何でも頑張りたいです。でもこれは、中学を卒業したらもうしないのではなく、高校や大学、社会に出てもできたらいいなと思います。クラスではみんな男女関係なく話せるようにしたいです。

中学生になるとたくさんの方と学ん

でたくさんの方に出会って支えられると思います。中学校生活、いろいろな不安や心配が少しあります。ですが今日友達と一緒に話して仲良くなれました。不安や心配を話して待っているだけではなく、自分から行動していききたいです。そして楽しい中学校生活にしていきたいです。

## 何事も全力で

### 3組 桑田 健太

僕は中学一年生になって小学生の頃にはできなかったことをどんどんできるようにしていこうと思いましたが、いろいろなできなかったことはありました。中学一年生で親を困らせたのだと思います、自主的に何事でもやるということをしように思いました。小学生の頃は親にまかせてしまうことが多かったですが、中学生になってからは人が嫌がるようなことなども積極的にやっけていこうという風に思いました。

いろいろな人が言っているように「やらずに後悔するより、やって後悔するほうがいい」というような言葉があります。この言葉は、やらずに後悔したら一生悔いがのこる、でも、やって後悔したら、

その時だけ恥をかきただけなのでやって後悔したほうがいいという意味だと思います。僕はこの言葉を聞いて何事にもめんどくさがらずに人が嫌がってやらなようなことも全力でやろうという風に思いました。また学校のことだけを自主的になつていくのではなく、きちんと家事など親への負担を少しでも減らしていけるようにしたいです。

今まで育ててくれた分の恩返しをこれからしていこうという風に思いました。頑張りたいです。

### 積極的に行動したい

#### 4組 三上 華奈

私が中学生になって頑張りたいと思うことは二つある。

一つ目は周りの人の意見を大切にすることだ。中学校では部活動などいろいろな人とかわるし、人も多くなる。ということ、それだけいろいろな人の意見があるということだ。自分の考えだけ一方的に主張するのではなく他の人の考えも聞いてみたら、「こんな考え方もあるんだ」と新しい発見ができると思う。これからクラスでもたくさんの方の意見を共有してい

きたい。

二つ目は、自分で気づき考えて、行動する力をつけることだ。小学校では先生の指示を聞いて、その通りに動いていただけだった。悪いことではないけど、このままでは何も成長することができない。自分から動くことができなくなってしまうし、周りに頼りすぎてしまうと迷惑に陥ってしまう。だから自分で考えて判断し行動する力をつけると、何かを準備するときスムーズに動くことができる。この力をつけるためには、周りを見る必要があると思う。例えば教室にいて、誰かが困っているとき、

「大丈夫？ どうしたの？」

と、優しく声をかけることなどだ。こんな行動を積み重ねることで自然にこの力をつけることができるんじゃないかと思った。身の回りをよく見て、積極的に行動ができるように頑張りたい。

まだ新しい環境で慣れていないことをして、緊張するし、不安もたくさんある。だけど、少しずつこの生活に慣れていってたくさんの方にチャレンジしていきたい。そして金光学園で充実した毎日が過ごせるように頑張りたい。

# ほつま祭

初めてのほつま祭で学んだこと

中1 4組 爲房 百恵

私が、ほつま祭をとおして学んだことは二つあります。

一つ目は、周りを見ることの大切さです。私のクラスは展示をしました。展示物の船を、みんなでつくり上げたときの達成感は今でも忘れられません。一人だけでは完成させることはできなかっただろうと思います。グループの人とつくる時、私は自分の意見ばかり押しつけていました。でも、周りの人の意見を聞くことで、新しい意見を生み出し、楽しくつくることができました。たくさん意見が出て言い合いになったりもしたけど、グループの人たちみんな協力したからこそ初めてのほつま祭は大成功したのだと思います。これからも周りを見て行動していきたいです。

二つ目は先輩方のすごさです。展示は動画や実物などがあって分かりやすく、見ている側を楽しませてくれました。段ボ

をより一層輝かせてくれる照明、よりみんなを盛り上げてくれる音響、実際に演技するキャスト、これら全てが完璧にそろってこそ最高の演劇になります。4-1-13ではなくて、4-1-10になつてしまふのが演劇です。どれか一つでも欠けてしまうと成り立たなくなつてしまいます。全てがそろわないとできないから、一人一人がクラス全員のことを考え協力し合うということの大切さを学びました。



ルでお城やサメを細かいところまで表現してあり、びっくりしました。私達も船やトラックや飛行機をつくったけど、もっと細かいところまで見てつくらないといけないと気付くことができました。他にも、先輩方がやさしく説明してくれて嬉しかったです。クラスごとに違う雰囲気それぞれに魅力を感じました。私も先輩方に負けないような展示を試みたいのです。演技では、役の一人一人が真剣で、思わずスクリーンに夢中になってしまいました。共感できるような考えられた内容で、見ている人に元気を与えてくれていました。先輩方の堂々とステージに立っている姿は、とてもかっこ良かったです。私もほつま祭で演技をすることになったときは、見ている人に元気を与えられるようにしたいです。

初めてのほつま祭で準備が大変だったけど、本番が大成功してよかったです。ほつま祭で見た先輩方の姿をお手本に、これからの学園生活を送ってみたいです。

## 初めての演劇

中2 3組 木地 悠輝

僕が初めての演劇を終えて感じたこと

二つ目は、とにかく楽しむということ。決まらずにふざけて楽しむというわけではなく、真面目にやりつつ楽しむことが大切だと分かりました。いくら完璧な演劇だとしても、楽しめなかったという形になれば元も子もなくなつてしまいます。真面目にやりつつ楽しむということの大切さを学びました。

三つめ目は、本番では120パーセント出せるようにするという事です。普段の練習から200パーセントで練習すれば、必ず本番は120パーセント出せます。なので練習から本気で取り組んで、本番でそれを爆発させることの大切さを学びました。

今あげた三つのことは、このクラスのこのメンバーでできたからこそ学べたことだと思っています。そして来年にも活かせると思っています。本当にこの3組のみんなと演劇ができて、楽しくて、最高でした。ここで学んだことを必ず来年に活かして来年はもっともっとと最高の演劇になるように頑張ります。

## 涙と笑顔のほつま祭

中3 2組 小林 なな子

「We Love DANCE!!」 ダンス部行く



は、大きく分けて三つあります。

一つ目は、友達と協力することの重要性を改めて感じました。まず演技で使うものを準備する大道具、小道具、本番にみんな



ぞー！ おー！

今年もこの瞬間が来た。嬉しいのか悲しいのか分からない瞬間だった。なぜなら、今日を最後に大好きな高校2年生の先輩が引退するからだ。この掛け声は3回目だが、今までにない特別なものとなった。先輩一人一人の思い出が蘇る。今までの私たちの練習成果をステージで発表できる喜びと、これで先輩と踊れるのは最後だという寂しさと共に幕が上がった。

ほつま祭の練習までさかのぼるが、最後に引退する先輩の振り付けからは、最



高のものにしようという熱い意気込みが伝わってきた。みんなもそれに応えようと必死に練習した。

私たちの学年は入部した頃からずっと先輩に憧れていて、あんなふうになりたいと毎日技術を磨いて目指してきた。今年には練習できる時間が少なかったが、誰もが最高の結果を残そうと計画を立て努力してきた。実際のステージの広さや録画した動画を見て、ぎりぎりまで改善す



べきところを見つけ、知恵を出し合った。1年生の頃から一人も欠けることなく、そして、年々新しい仲間が加わり現在9人。一人一人性格や考え方は違うけれど、ダンスで繋がったこの縁を大切にしたい。私たちの引退まで2年。このままみんな一緒にゴールすることが私の夢だ。2年後のほつま祭では、先輩を超える作品をステージで発表したい。

すべてが終わる最後の写真撮影。私たちは達成感に満ちていた。

「ダンス部を頼んだぞ!」

先輩からの言葉と、あふれる涙の中にも最高の笑顔。「Power of Smiles」という今回のテーマの通り、私たちは確かに先輩から受け取った。

最高の瞬間と共に幕が下りた。

### 言葉を伝え、感謝を受け取る

高1 6組 木下 幸喜

私はこのほつま祭で自分の作った模造紙を見てもらい、説明するという行動の楽しさに気がつきました。ほつま祭前までは、自分の模造紙を仕上げることにしか頭がなく、何となく自分の模造紙を書いていました。しかし、ほつま祭1日目に、

には私自身の表現力の無さで話が思うように通じないこともありましたが、写真などの説明を加えることで上手くカバーすることができました。

今回のほつま祭で、「人に自分の言いたいことを伝える」という人生において大切な要素を「言葉」という道具で人に伝える貴重な経験をする事ができたと思います。

### 良い刺激を与え合う

高2 5組 岡邊 一むぎ

一つ一つの台詞に、それらと共に聞こえてくる音楽に、キャストに、鳥肌が立った。自然に流れを覚えてしまう程、何度も見えてきた内容なのに。とても不思議な感覚で、初めての経験だった。自画自賛になってしまったが、こう思うことができるのも、監督・キャスト・大道具・照明、2年5組全員のおかげだ。

ほつま祭の準備にとりかかった頃は、不安なこと尽くしだった。準備日数の短さ、クラス人数の少なさ、そして、展示・演技の審査中止。どの問題も私たちのやる気を削ぐものだった。しかし、他の学校では、大きな行事等は中止になる中、ほつま祭が

できるといえるのは、とても嬉しいことだった。

劇の準備は、7時間目の授業後から6時までの少ない時間の中で行っていた。家に帰った後も台本の暗記・修正、小道具の製作。それぞれの係の仕事はとも多かった。台本の変更点を伝えられるたび、小道具が増えるたび、私は、クラスメイトの影ながらの努力に脱帽したし、自分もみんなに負けていられないと、CDデッキを持つ手に力がいっぱい。立ち稽古や舞台稽古をし、劇が完成へと近づいていくうちに、最初抱いていた不安は消え、自信がついた。「劇、絶対見てほしい!」と周りの人に言ってみるくらいだった。

今回改めて、念入りの準備と毎日の努力が自信につながると実感した。不安な状態にあっても、自分を奮い立たせる材料となった。そしてもう一つ、私がこのほつま祭で全力を尽くそうと思えたのは、クラスメイトの姿を見たからだ。些細な事でも手を抜かず全力で取り組む姿勢は、とてもかっこよかったし、自分もその仲間に加わりたと思った。実際に、気になったところは、まわりと相談し、自分の意見を言えるようになっていたと思う。周

あるお客様に、私の模造紙のテーマであった「宇宙食」について質問をされました。その時に私は、知っている雑学を含め「宇宙食」に関しての説明を20分程かけてしました。すると、その後お客様は笑顔で帰られました。

この時は、自分の知っていることで他人を笑顔にする楽しさに気が付き、自分の模造紙を見てくれる全ての人と「感謝」という名の対話を図ろうと思えました。時



りからの刺激は、自分を良く変えてくれた。これはほつま祭に限った話ではない。大学受験に向け、クラスメイトの存在は、自分を成長させてくれるものとなると思う。そして、私自身も、誰かに良い刺激を与えられようになりたい。

# 中学 体育会

エールをおくる体育会

1年1組 田村 優衣

私が体育会の行事を通して最も心に残った取り組みは応援合戦です。応援合戦が心に残った理由は、初めて1組の兄弟学級の2・3年生の先輩と協力をし、素晴らしい応援を保護者の方や生徒たちに届けることができたからです。また私は最初少し恥ずかしくて、自信もなくて不安でした。けれど、先輩たちが練習の時にたくさん指導して下さい、本番では先輩たちのおかげで満足の出来る応援ができて、後悔なく終わることができたからです。

1組は元気に楽しく応援をするという目標を持って、にぎやかだけど真面目に取り組めて一番笑顔を絶やさずにできていたので、他のクラスよりも気持ちの面でも輝いていたなと思いました。1組以

外の兄弟学級の応援を見てどのクラスも努力して作りあげてきた感じがして、とてもいいなと思いました。今年の体育会は特にまわりの人への感謝の気持ちを忘れずに、応援にこの感謝の気持ちも込めてエールをおくることを心がけました。体育会の取り組みを通して自分の中学生生活に生かしたいことは行動力です。先輩たちが自らできることをさがして役目を果たそうとしていたので、私もまわりを見て誰かのために動けるようになりたいです。先輩たちの輝く姿を見て、自分を成長させたいから、もっとこれから学んでいきたいです。今年は満足感のある体育会になったので、来年は先輩にも楽しんでもらえるようにこれからも自分でも努力をして何事にも全力で取り組めるようになりたいです。

## 体育会で感じたこと 学んだこと

1年2組 村上 遼

僕が今回の体育会で心に残った瞬間は400メートルリレーで1位でゴールした瞬間です。

先生からは、400メートルリレーは大きな得点が入る重要な競技だと言われてい

思う気持ちがこみ上げてきました。だから400メートルリレーで1位でゴールした瞬間が、僕が今回の大会で最も心に残った瞬間となりました。

今回の体育会では、3年生の気持ちの入れようが、キビキビとした態度から感じる事ができました。1年生の自分には、3年生のような技術や実力はないかもしれませんが、態度なら1年生の自分でも3年生以上のものを示していけると思うので、メリハリのあるキビキビとした態度でこれからの学校生活に臨んでいきたいと思います。

僕は今まで、

リーダー等になったときには、厳しくすればまともりが出るという思いで周りに厳しくしてきました。しかし、今回の3年生は本当に明るくて優しく、それととてもまとものあるチーム



を作っていました。僕はそんな3年生を見て本当に良いリーダーというのはいくらリーダーのことをいうのだと学ばせてもらうことができました。

だからこれからはダメなことをしたときにはきつちりと厳しくしなければいけません、普段は明るくて優しい人を目指していきたいと思いました。

今回の大会で学んだことや感じたことを今後の生活に活かしていきたいと思えます。

## クラス全員の心が一つになった体育会

2年1組 川上 結叶

僕は、今年の体育会で去年とはまた別のことを学びました。それは、どれだけクラスみんなの心が一つになることが大切かということです。今年の体育会は、例年と違って新型コロナウィルスの影響で、いろいろな制限などがあってとても大変でした。その中でも、僕たちを引っ張ってくれた3年生を僕は誇りに思います。

僕が印象に残ったのは、大縄跳びと400mリレーです。1つ目の大縄跳びでは、本番で最高記録を出すことができました。最高記録が出た理由は、やはりクラ



ました。さらに、僕と一緒に走るアンカーの子も、僕よりも50メートル走のタイムが良かったため、その子に抜かれないかどうか心配だったので、本番前の三日間ほどはとても不安でした。そんな中で1位でゴールすることができたので、ゴールした瞬間にほっとした気持ちと嬉しく



ス一人一人の「絶対」跳ぶ」という気持ちの一つになつたからだと思います。2つ目の400mリレーでは3位になりました。それでも、とても記憶に残る400mリレーでした。僕も緊張が止まらなくて、恐怖心でいっぱいでした。それでも、友達の声をかけてくれて、僕は全力で精一杯走りました。最終的には、兄弟学級の部で1位をとることができ、学年別でも中学2年生の部で1位をとることができました。みんなが一人一人の力を合わせて全力でやったからこそその結果だと思えます。

僕は、今年までは3年生に引っ張ってもらった側だったけど、今度は僕たちが後輩を引っ張っていく側になります。今年の3年生を超えられるような3年生になりたいと改めて感じる事ができ、全体で何かの部門で1位になりたいと思えます。

## 体育会を通して

### 2年4組 西 哲史

ぼくは、今回の体育会でたくさんのお話を学ぶことができました。例えば、先輩達の指導、体育会に注ぐ熱意、みんなよりよいものへ改善していくことなどです。特に応援合戦と長縄跳びで顕著に感じられました。応援合戦では、4組全員で協力して、踊りの振り付けや移動する場所の確認をし、前日まで改良に改良を重ねてきました。その結果、体育会当日、最高の出来栄で、みんな楽しんで踊ることができたからです。また、先輩方の指導や熱意に応えようと努力してきただけの頑張りではなく、やり切ったなあと感じました。また、長縄跳びでは、2年4組のみんな、自分たちの記録を最大限に出せるように頑張りました。その甲斐が



あって、体育会当日にぼくたちは今までの最高記録を出すことができました。努力することの大切さ、努力したことは決して無駄にならないということを実感しました。今後、このことを学習面でも実践していきたいです。

今まで数々の体育会を経験してきましたが、今回ほどチームにまとまりがあり、達成感を強く感じたものはありませんでした。今回、5つのトロフィーがある中で、緑チームが4つも獲得することができました。ぼくが今まで経験したことの無い快挙でした。みんながルールを守り、応援する態度などが良かったことが大きかったように感じます。とてつもなく大きく感じる結果も、一つひとつのことを着実にみんなが協力することによって実現できることを学びました。

来年、ぼくらは中学最高学年になります。来年は下級生たちを引っ張っていきける素敵な先輩になりたいです。

### マイナスからプラスへ

#### 3年3組 平山 史織

私は体育会があまり好きではない。運動が苦手な足を引っ張ってしまうか

### 最高の思い出をありがとう

#### 3年4組 鳥井 裕治郎

僕は体育会を通して、色々なことを学ばせてもらった。

まず僕は4組の団長ということでも大きな立場に立たせてくれたことに今は感謝している。初めは、こんな自分が団長なんかにならせてもらった、4組を引っ張っていくのかという心配がとてつもなく大きかったが、自分なりに全力で団長のすべき仕事をしたら、最高に楽しかった。

1年、2年、3年のみんなでする練習、みんなついてきてくれるかという心配をしていたが、みんな言ったことはちゃんとしてくれた。最高のメンツだということに気が付いた。みんなダンスを覚える速度はとて早く、最後の方の練習では、することがないくらいだった。

そんな練習を積み重ね、ついに本番前日に変更が入ってしまい、成功すれば奇跡なんじゃないかってぐらい不安がとてつもなく大きかった。でも、僕が「4組いくぞー」と声に出した瞬間、大成功するという気持ちに変わった。全員の声がそろっていたからだ。自分の予想通り、4組の出し物は最高の思い出になった。

力でできてよかった。幹部の人達は当たり前のようにしているけれど、ゼロから構成やダンスを考えることはとても難しいことなのだ。たとえ自らしてくれていても、多くの苦労があるのだと思う。そんな幹部の人達は本当にすごい。応援合戦を頑張ることで、幹部の役に立つことができていれば嬉しい。応援合戦が苦手な先輩も、いざ中学3年生になれば、きつと頑張ろうと思えるはずだ。私がいままで好きではない体育会も、誰かにとってはとても大切なことなのだ。苦手なこともその中に楽しさを見つければ、意外と楽しめる。自分を中心に狭い視野ではなく、広い視野を持つと、マイナスだったことがプラスになることもある。そんな大切なことを学べた体育会だった。



らだ。だから、小学生の頃から毎年早く終わってほしいと思うばかりだった。しかし中学3年生であるため、自分達が先頭に立って行わなければならない。最初は全く気乗りしなかったが、段々と気持ちが前向きになっていった。

長縄などの競技は自分が足を引っ張ってしまうのではないかと不安だったが、思っていたよりも跳ぶことができた。私はあまり体力がないけれど、皆の応援と一緒に頑張っているCチームのことを考えると、ずつと跳ぶことができた。

個人で出た障害物競走は4位で申し訳ない気持ちでいっぱいだった。けれど、他のクラスの人達もたくさん応援してくれて嬉しかった。また、テントに帰っても誰も私のことを責めなかった。

応援合戦も、ダンスが不得意な私としても大変だった。それでも、私なりに全

4組は応援の部で優勝をおさめることができた。とても嬉しい気持ちでいっぱいになった。本当についてきてくれた1年、2年、そしてこんな自分を仲間にしてくれた幹部のみんなには感謝の気持ちでいっぱい。最高の思い出をありがとう。」



## 高3人権講演

# 「私の歩んだ道く見えなから見えたものく」

NPO法人 ヒカリカナタ基金 理事長 竹内 昌彦先生

立派な人になる

1組 下見 虎太郎

竹内先生のお話は、僕が中学生の頃に一度聞かせていただいたことがあり、本当に感動したことを覚えていて、今回の講演について通信で知った時は、「また聞かせていただけるのか!」と、とても嬉しく思っていた。お話を聞いていると、竹内先生は考え方がとてもポジティブで、その様な「ものの考え方」も学ばなければいけないと感じる。僕は、自分さえよければいいと考えてしまう人間だが、竹内先生の様に、人のためを思って動ける立派な人間になりたいと思った。今、自分が生きていることが当たり前だと思つて適当に生きるのではなく、両親や友達に感謝して、人に優しい立派な人間になれるように必死に努力していきたいと思う。

正しいことを勇氣を持って貫く

2組 川田 清華

今日、最も私の心に残ったのは、「正しいことを勇氣を持って貫く」という言葉だ。これまでを振り返ってみると、自分では正しいと思つていても、自分の意見が少数派であると、それを貫き通せないことが多々あったと思う。しかし、竹内先生のお話を聞いて、自らの意志に自信を持つて行動することが正解であることに気付いた。少しの勇氣を持つて行動することで、「ありがとう」と言われる機会が増えると思う。困っている人がいたら、常に手を差しのべることでできる人間になりたい。そして、人に喜ばれる人生を歩んでいきたいと、今日の講演を聞き終わった後、心から思った。この様な素晴らしいお話を聞くことができて光栄です。

何か困ったことがありますか?

3組 矢野 瑠菜

今日の講演では、多くのことを教えていただいた。私も、駅や道で、視覚障害を持った方々を見かけたことがある。目の不自由な方が自分の目の前を歩いている、近くを歩いたら危ないだろうと思いい、なるべく離れて歩いていた。竹内先生のお話を聞いて、離れて歩くのではなく、「何か困ったことがありますか?」という一言の声掛けが大切だということを学んだ。今まで、自分には「恥ずかしい」という思いがあり、何もしていなかった。これからは、視覚障害のある方を見かけて、何か困っている様子が見られれば、声を掛けて、道案内などができる勇氣を持



うと思った。また、自分の周りに困っている人がいたら、積極的に手助けをして、人から「ありがとう」と言われる人間になりたい。

人間らしさ

4組 桑田 大輝

今日の講演を聞いて、自分はどれほど幸運かが身に沁みて分かった。戦争もなく、人種差別もないこの日本のこの時代に生まれてきたことを両親に感謝したい。その感謝の心を持って、目の不自由な人であるが、体に何かの障害を抱えた人であるが、差別したり偏見を持つたりせず、相手のことを正しくしっかりと理解して接することができる様な、「ヒューマニズム」を備えた大人になりたい。これからは、誰か困っている人を見かけたら、声を掛けて、手助けしようと思う。

みんなにとって素敵な人になるために

5組 永原 みゆ

今日の講演を聞いて、もう一度、自分の人生を考え直すことができた。これまで私は何度も『なぜ勉強するのだろうか?』と考えることがあった。竹内先生のお話

を聞いて、それは自分のためでもあり、立派な人になるためでもあるということに気付いた。「立派な人」という言葉を聞くとき、とても難しいことのように感じていたが、「立派な人」というのは、自分のことより他人のために自分を生かそうとする人のことだと分かった。これから生きていく上で、私は人から感謝される人間になりたいと思う。この休校期間中にも、視覚障害のある方が困っているような様子を見かけたにもかかわらず、声を掛ける勇氣が持てず、何もできないという経験をした。私は今、そのことを後悔している。手助けができれば、きつと感謝していただけるし、優しい目や優しい心に向けていることができる人は、人間の中で一番素晴らしい人だと思うからだ。今、改めて、自分が健康な体をいただいたこと、私を支えてくれている家族や周りの友達に感謝したい。

当たり前と思わない

6組 浅原 果歩

自分は目が見えて、耳が聞こえて、手足も自由に動かすことができる。一般的には当たり前かもしれないが、それを

当たり前だと思つてはいけない。今日の講演を聞いて、強く心に感じた。竹内先生は、目が見えないという、人と少し違うという理由だけでいじめられていたが、その周りからの重圧に負けなかった先生は、本当に強い方だと思う。小さな体で必死に戦ったからこそ、それを乗り越え、今の笑顔の竹内先生がおられるのだと感じた。「たとえ周りから何を言われようと、絶対に死んではいけない」。本当にその通りだと思つた。病氣や障害を持つて生きている方々の中には、先生の言われていた「優しい人」が多いと思う。自身の体で痛みを知り、人の痛みが理解できる人たちだからこそ、人に優しく接することができるからだ。その人がこれまでどの様な苦悩を味わってきたかも知らずに、今なお自分の病氣や障害と闘っている人たちに、無責任な言葉をあびせるのは、あまりにも失礼だ。寄り添つて、「大丈夫ですか? 手伝いましょうか?」と、そんな些細な言葉をかける大切さを学んだ。





ウジャリーのテーマ」「芭蕉布」「愛をありがとう」「ロックポート」「鬼姫」「エスメラルダ」を演奏した。

この期間、演奏会以外にも公式SNSやホームページでの情報発信や公式YouTubeチャンネルでの動画配信にも取り組んだ。ぜひ高評価、いいね！をお願したい。

《音楽部コーラス》 新型コロナウイルス感染症拡大の影響で合唱祭、合唱フェスティバル、コンクール課題曲講習会、そして夏のコンクールそのものも中止となった。また夏合宿や訪問演奏など例年の行事も行うことができないなか、新たな活動を模索しつつ、歌うことを継続することができた半年間だった。

7月29日(水)に岡山シンフォニーホールで開催された、東京国際声楽コンクール岡山大会に高校生のみで初めて参加した。曲目「あいうえおおさかくいだおれ」を歌い、準本選に推薦された。

8月1日(土)に倉敷市芸文館アイシアターで、部員保護者を対象にしたミニサマーコンサートを開催した。第1ステージはポップスを中心に全体合唱と中高に分かれた合唱曲を楽しく歌い、踊った。

第2ステージは各学年の紹介をしつつ、学年ごとに歌い、最後はNHK学校音楽コンクール中学校課題曲となっている「足跡」を全体合唱で歌い、締めくくった。

9月13日(日)はつまつ祭2日目にステージ発表をした。ポップスや合唱曲「鷗」など4曲を発表した。

11月14日(土)に、新年度になってから開催できていなかった新入部員歓迎会を行った。新たに入学した中1は8名、中2は1名、中3は1名を歓迎し、みんなでゲームなどを楽しんだ。

《高放送部》 高校放送部では、9月に行われた体育会で放送を務め、臨場感あふれるアナウンスで、会場の雰囲気盛り上げた。

《中美術部》 1年生4名、3年生4名で活動している。ほつま祭の部展示では「With O O」と題し、With ロナと言われる中、日常生活で楽しくなれるものを考え、個性あふれる作品を展示した。

《高美術部》 1年生3名、2年生12名で活動している。ほつま祭ポスター原画に使用する作品の制作に部全体で取り組み、投票によって高2福武莉奈の作品を選んだ。部展示では「Art Crime」と題し、

部員たちがこれまでに制作した数々の作品を展示した。また、来年2月に行われる岡山県高校美術展に向けて、個人作品の制作に励んだ。

《囲碁将棋部》 10月25日(日)に岡山県立倉敷青陵高等学校で行われた第40回岡山県高等学校秋季将棋大会男子個人戦A級リーグ戦(スイス式トーナメント)に1年生3名が参加した。3名ともに一勝することはできたが、上位進出はならなかった。

《文芸部》 高2の部員5名で活動している。月ごとにテーマを設けて小説を執筆した。作品は月例集にまとめ、批評会を行うことで互いに研鑽を積んだ。

《軽音楽部》 ほつま祭で4バンドが5曲演奏を行い、練習した成果を存分に發揮した。

《高・陸上競技部》 全国高等学校2020が広島県エディオンスタジアムで開催され安福柘汰が110mハードルに出場した。

岡山県高等学校総合体育大会が開催され、西森翔真が三段跳で優勝。谷本きなりが200mで2位。安福柘汰が110mハードルで優勝。荒川歩夢が走幅跳で5位。六原未智・谷本きなり・和田真穂・田頭咲

和が1600mリレーで8位に入賞した。

岡山県高等学校陸上競技選手権大会が開催され、西森翔真が三段跳で3位。谷本きなりが100mで8位、200mで4位。清水麻理が5000m競歩で6位。六原未智が三段跳が110mハードルで優勝。六原未智が三段跳4位。荒川歩夢が走幅跳で5位。400mリレーで赤島菜月・六原未智・田頭咲和・谷本きなりが6位に入賞した。

岡山県高等学校新人陸上大会が開催され、西森翔真が三段跳で2位。清水麻理が5000m競歩で6位。安福柘汰が400mハードルで3位。六原未智が三段跳で5位。荒川歩夢が走幅跳で5位。400mリレーで高橋咲太・安福柘汰・西森翔真・荒川歩夢が7位に入賞した。

《中・陸上競技部》 岡山県中学校総合体育大会が開催され、小寺雄晴が走幅跳で5位。萩原正人が走幅跳で決勝進出。馬場穂佳が200mで6位。為房百恵が100mで5位に入賞した。

岡山県ジュニア陸上競技選手権大会が開催され、小寺雄晴が走幅跳で6位に入賞した。

岡山県秋季陸上競技記録会が開催され、小寺雄晴が走幅跳で4位。為房百恵

が走幅跳で6位に入賞した。

岡山県中学校秋季大会が開催され、為房百恵が100mで4位に入賞した。

《ラグビー部》 9月5日(土)に行われた岡山県高等学校ラグビー選手権大会に岡山城東・岡山一宮・津山高専との合同チームで参加した。1回戦で倉敷に0-41で敗れた。10月25日(日)に行われた全国高等学校ラグビーフットボール大会岡山県予選会に岡山城東・岡山一宮との合同チームで参加した。1回戦で高松農業に7-43で敗れた。

《中男子ソフトテニス部》 10月に笠岡総合スポーツ公園で開催された『秋季備南西地区大会』に出場した。矢島・松永ペア、内田・北口ペア、森永・桑田ペアが2回戦敗退、金光・梁原ペアが3回戦敗退、桑田・竹内ペア、能宗・篠原ペアが4回戦敗退という結果になった。また、11月に井原運動公園庭球場で開催されたチャレンジカップ備南西地区大会にも出場した。2年生では内田・北口ペア、桑田・竹内ペアが2回戦敗退、1年生では、金光・梁原ペア、早野・片岡ペア、日置・板野ペアが2回戦敗退という結果になった。惜しくも県大会の出場は逃したが、

大会の結果を受けて、部員全員が切磋琢磨し練習に励んでいる。

《中女子ソフトテニス部》 7月、第14回びんごふくやま中学生ソフトテニス交歓大会(団体)に出場。第30回福山市スポーツ少年団中学生ソフトテニス交歓大会(個人)では、3年生の部で、金田・河田ペアが第3位となった。

8月、地区総体の代替大会として、3年生のみの参加で行われた備南西地区体育大会(ソフトテニス競技)には、金田・河田ペアが出場、公式戦として最後の試合を戦った。第8回天野カップ中学生ソフトテニス研修大会(団体)に出場し、第3位となった。第29回チャレンジカップ備南西地区中学生ソフトテニス大会(個人)では、1部で中2安藤・谷野ペアが3回戦敗退、金田・河田ペアと中2中村・古江ペアが2回戦敗退、II部で中1石原・藤井ペア、難波・大島ペア、田村・坪井ペアが3回戦敗退、小寺・守屋ペアが1回戦敗退であった。

10月、備南西地区秋季体育大会(ソフトテニス競技)個人戦では、安藤・谷野ペアがベスト16、中村・古江ペア、石原・藤井ペアが3回戦敗退、難波・小寺ペア、

田村・坪井ペア、守屋・大島ペアが2回戦敗退であった。団体戦は、予選敗退に終わった。

11月、第30回チャレンジカップ備南西地区中学生ソフトテニス大会(個人)では、I部で安藤・谷野ペアが2回戦敗退、中村・古江ペアが1回戦敗退、II部で石原・藤井ペアが第3位、難波・小寺ペア、田村・坪井ペア、守屋・大島ペアが予選敗退であった。

《高女子ソフトテニス部》 7月18日に備前テニスセンターで行われた岡山県高校総体代替大会《ダブルス》に1ペア出場し、1回戦は岡山操山高校のペアに勝利したが、2回戦で岡山南高校のペアに敗れた。8月22日に福田公園テニスコートで行われた高梁川流域高校ソフトテニス大会《ダブルス》では、倉敷古城池高校のペアに敗れて2回戦敗退。11月14日に備前テニスセンターで行われた岡山県高校新人ソフトテニス大会《ダブルス》では、1回戦で倉敷中央高校のペアに敗れた。コロナ禍の中、公式試合が軒並み中止となり、高3は1試合も戦わずに引退することとなった。新チームは高1の1ペアのみであるが、他校との合同練習や試合の中で

刺激を受け、前向きに取り組んでいる。

《中卓球部》 8月3、4日に備南西地区体育大会に男子7名、女子2名が出場した。男子シングルスでは光田隆(13)と山本(13)がベスト8、光田舜(13)がベスト16に入った。女子シングルスでは大野(13)がベスト16に入った。8月3日にカデットシングルス交流大会に参加した。男子シングルス14歳以下(2部)で藤井(12)がベスト4、岸本(12)がベスト16に入った。

9月20日に井原卓球協会会長杯争奪卓球大会に参加した。男子シングルス(中学の部)で光田隆(13)と山本(13)がベスト4に入った。

10月3、4日に備南西地区秋季卓球大会に男子9名、女子2名が出場した。男子シングルスで白神(12)が優勝、藤井が6位で県大会出場を決めた。

11月1日に岡山県秋季卓球大会に出場した。男子シングルスで白神がベスト8に入った。藤井は1回戦敗退であった。

《高卓球部》 7月19日に岡山県高校総体代替大会に出場した。男子シングルスで山本(U3)がベスト16、佐能(U3)がベスト25、栗田(U3)は予選リーグ

敗退であった。

10月3、4日に岡山県高等学校秋季卓球選手権大会に出場した。男子団体予選リーグで西大寺に3-0、津山工業に3-1で勝ち、決勝トーナメント2回戦で和気閑谷に2-3で敗れ、ベスト32であった。

10月31日に岡山県高等学校新人卓球大会に出場した。男子団体1回戦で岡山龍谷に3-0で勝ち、2回戦で井原に3-2で敗れ、ベスト32であった。

《中野球部》 8月3、4、6日にどんぐり球場などで行われた備南西地区夏季総体の代替となる大会では、1回戦芳井中学校に12-0、2回戦金浦中学校に1-0で勝利し、ブロック優勝決定戦では、新吉中学校に3-1で勝利し、コロナの影響による3年生最後の大会で有終の美を飾った。

新チームとなり、9月19日に奥市補助球場などで行われた第12回全日本春季軟式野球大会岡山県予選会では、1回戦味野中学校に4-0で勝利したが、準決勝で西大寺中学校に1-1でタイブレークの末0-1で敗れ、ベスト8に終わった。また、10月3、4日にどんぐり球場な

どで行われた備南西地区秋季大会では、2回戦金光中学校に5-0、代表決定戦では、小北中学校に5-1で勝利し、9年連続の県大会出場を決めた。

11月1、4日にかよう球場などで行われた岡山県秋季大会では、1回戦津山東中学校に6-0、2回戦連島中学校に3-1で勝利したが、準決勝で久世中学校に0-0でタイブレークの末1-2で敗れ、3位となった。

11月14・15日に中電グラウンドなどで行われた第21回玉浅良寛杯中学校野球大会では、1回戦水島・黒崎中学校に3-4で敗れた。

《高野球部》 7月18日より開幕した2020夏季岡山県高等学校野球大会は、Aシード校として大会に挑み、二回戦で水島工業高校に10対0で勝利したが、三回戦で岡山理科大学附属高校に2対3で敗れました。ベスト16での敗退であった。

新チームになり、9月12日に秋季岡山県高等学校野球大会西部地区予選が行われたが、初戦の高梁日新高高校に2対5で敗れ、予選敗退となった。

11月には岡山県高等学校野球一年生大会が行われ、一回戦で興譲館高校に4対

7で敗れた。

《高サッカー部》 7月23日に練習試合を行い、対玉島(30分×3)(1-3)、対笠岡工業(1-0)。7月25日・26日の県総体代替大会では、対倉敷工業(0-5)、対倉敷南(0-0)、対学芸館(0-7)、対邑久(1-0)。8月9日に練習試合を行い、対おかやま山陽(1-2)、対高陽(1-0)。8月23日に練習試合(30分×3)を行い、対アクト(0-2)。高円宮杯U-18サッカーリーグ2020OKAYAMAチャレンジリーグの結果は次の通りである。8月30日、対高梁(1-1)。9月6日、対創志学園C(0-3)。

9月26日、対玉島(1-2)。11月7日、対西大寺(0-2)。11月14日、対美作(1-0)。11月21日、対倉敷南(0-5)。岡山県高校サッカー選手権大会一次トーナメント1回戦は対青陵(1-1PK負)。

《柔道部》 10月3日に里庄武道館で令和2年度岡山県中学校体育連盟備南西地区秋季大会柔道競技が行われた。男子団体戦は里庄中に敗れ第2位、女子団体戦は第1位であった。階級別の個人戦は男子4名女子2名が出場し、中2の磯川謙・大橋琉成・辰川玉実・中川舞子が第1位、

坂田章・高氏喜太郎が第2位であった。10月30日、31日に岡山武道館で第70回岡山県高等学校柔道優勝大会が行われた。男子団体戦は1回戦に岡山学芸館高校に敗れた。男子個人戦は7名出場し、それぞれが健闘した。

11月1日、2日に岡山武道館で令和2年度岡山県中学校秋季柔道大会が行われた。男子団体戦は1回戦に福浜中に敗れ、女子団体戦は欠場した。男子個人戦は4名、女子個人戦は1名出場し、それぞれが健闘した。

《中剣道部》 新型コロナウイルス感染症の、感染予防ガイドラインに沿って開催された。

段級審査会が9月6日(日)天草公園体育館で開催され、才野恵翔(2年)、山下劉(2年)が2級合格。井上綾萌(2年)が初段に合格した。

備南西地区秋季大会が10月3日(土)笠岡総合体育館サブアリーナで開催され、女子個人試合で井上が県大会出場決定戦に勝ち、県大会に出場。男子個人試合で山下が公式戦初勝利したが2回戦敗退。才野も公式戦初勝利のあと3回戦敗退でベスト8となり、県大会出場権を得る。

岡山県中学秋季大会が11月1日(日)～2日(月)御津スポーツパーク体育館で開催され、才野が1回戦敗退。井上が3回戦敗退で、ベスト32であった。

第15回浅口市剣道大会が11月15日(日)天草公園体育館で開催され、井上、山下が1回戦敗退。才野が2回戦敗退であった。《高剣道部》△前年度分▽段級審査会が令和元年6月9日(日)児島武道館で開催され、渡邊文奈(当時1年)が1級に合格。

段級審査会が9月6日(日)天草公園体育館で開催され、浅野優斗(1年)が三段に合格。

岡山県高校新人大会が11月7日(土)～8日(日)宮本武蔵顕彰武蔵武道館で開催され、浅野が1回戦敗退であった。

《中高少林寺拳法部》7月19日に岡山県立鳥城高校で開催された「岡山県高等学校総合体育大会代替大会少林寺拳法競技の部」に出場した。男子単独演武の部で高3坂本莉来が第一位、女子団体演武の部で高3能勢采奈・高橋南成子・原田麻未・高2虫明紗桜理・難波日奈子・山田優衣が第一位となった。いずれも副賞として、文部科学大臣特別賞を受賞した。

「令和2年度全国高等学校少林寺拳法インターネット大会」において、男子単独演武の部で高3坂本莉来が優秀賞を受賞した。

11月3日に岡山工業高校で開催された、「第31回岡山県高等学校少林寺拳法新人大会」に出場した。男子自由単独演武の部で高1友田隼咲が第二位、高1田淵春成が第三位、男子規定単独演武の部で高2高淵響が第六位。女子自由組演武の部で高2虫明紗桜理・難波日奈子組が第一位となった。

友田・田淵・虫明・難波の4名は12月に広島県立総合体育館で開催予定の第2回中国高等学校少林寺拳法新人大会の出場権を得た。また、友田・虫明・難波の3名は令和3年3月に善通寺市民体育館で開催予定の第24回全国高等学校少林寺拳法選抜大会の出場権を得た。

《中男子バスケットボール部》8月3日～5日に笠岡市民体育センター及び笠岡総合体育館で開催された代替大会が行われた。準決勝では、鴨方中学校に60対27で勝利し、翌日の決勝に進出した。決勝戦では、笠岡東中学校と対戦し、65対25で勝利し、今大会を優勝で終えることになった。

とができた。

10月3・4日に備南西地区秋季大会が天草公園で行われた。新チームとして迎える初めての大会となったが、1回戦で鴨方中学校と対戦し、24対74で敗れた。

《高男子バスケットボール部》10月に行われた第73回全国高等学校バスケットボール選手権大会岡山県予選会に出場し、1回戦は朝日高校と対戦し78―84で勝利し、2回戦は商大附属高校と対戦し101―64で敗れベスト8になりました。

横田星八(高1)・土屋勇弥(高2)が国体にむけての選手育成を目指した岡山県バスケットボール協会のU16育成選手に推薦され、練習会に参加しました。

《中女子バスケットボール部》10月3・4日に天草運動公園体育館にて行われた岡山県中学校秋季大会備南西地区大会において準決勝で鴨方中学校と対戦 74対17で大敗した。

10月25日に高橋中学校で行われたU15県リーグでは、3校のリーグ戦で開催。総社東中28対48金光学園で勝利。玉島東中21対63金光学園で勝利。高梁中17対39で勝利し、リーグ1位となった。

《高女子バスケットボール部》7月23・

24日に行われた県総体代替大会チャレンジーナメントで、第一試合総社南高校に69対44で勝ち、ブロック決勝で総社高校に69対56で負けた。11月14日に行われた新人戦備中地区予選会で、一回戦龍谷高校に44対43で負けた。

《中男子バレーボール部》

令和2年度後半の戦績  
新チームとして10月の備南西地区大会を優勝。11月の県新人大会でも優勝。

《高男子バレーボール部》高校3年9名、高校2年7名、高校1年5名で活動しています。11月に3年生最後の大会となる岡山県高等学校バレーボール選手権大会が開催され、2回戦、3回戦と順調に勝ち進み、準々決勝で美作高校にストレートで勝利し、準決勝、玉野光南に敗れ、3位という結果でした。12月からは新チームでの試合となります。引き続き、全国大会を目標に頑張っていきます。

《ダンス部》ほつま祭では、ほつま体育館で日頃の練習の成果を思い切り披露することができた。今まで部を引っ張ってくれた高2の最後のステージは熱のこもった素晴らしいものだった。ほつま祭後は、今までなかった縦割りのチーム分け

を行い、新しい体制での練習にも挑戦している。

《歴史研究同好会》ほつま祭で、日露戦争をテーマに展示を行った。戦争に関する日露両国の人物について、しっかり調べることができ、また、二〇三高地の模型は夏休み前から作成に取り組み、良いものができた。当日も多くの来場に見ていただき、好評であった。

《家庭科同好会》一昨年、昨年に続き、ほつま祭で展示を行った。「あつまれ家庭科の森」の表題のもと、刺繍や編み物、ビーズ小物、舞台衣装など、部員自作の作品を多数展示した。細かい手作業による刺繍やビーズ、また本格的な衣装など、多くの来場者に見ていただき、おほめのことばもいただいた。



## 学園だより

**入学式** 4月8日、新型コロナウイルス感染症防止の対策のため、規模を縮小して実施した。中学は午前中に、高校は午後からほつま体育館で行い、それぞれ125名、192名の新入生が希望に胸を膨らませて入学した。

**始業式** 4月9日、オンライン形式で1学期始業式が行われた。校長式辞、在校生を代表して高3の笠原麻由さんから歓迎の言葉、また新入生を代表して中1の鈴木雄斗さんから挨拶がそれぞれあった。

◇**新入生代表挨拶(中1 鈴木 雄斗)**  
暖かな春の訪れと共に、私たち中学校125名、高等学校192名は、金光学園の生徒として、新たな仲間と共に、新しい一歩を踏み出します。今日から新しい友達、先輩、先生方と出会い、たくさん思い出ができると思うとワクワクして楽しみです。その反面、授業は難しいだろうか、ついていけるだろうか。部活の先生や先輩は厳しいだろうか、という不安もあり

ます。

そうした中で、仲間と共に成長し助け合い、力を合わせて頑張っていこうと思います。僕たち新入生一同は、歴史と伝統あるこの金光学園の生徒として誇りを持ち、「人をたいせつに 自分をたいせつに 物をたいせつに」この言葉を胸に悔いのない充実した学園生活を送っていきたいと思いますので、どうぞよろしくお願ひします。

**臨時休業** 4月11日～5月30日、新型コロナウイルスの影響により、一斉休校を実施した。学力保障については、当初は課題を配布して対応し、4月20日以降はZOOMを用いたリアルタイム双方向形式のオンライン授業を、全学年を対象に行った。

**新入生本部参拝** 6月2日、晴天に恵まれ中1と高1が金光教本部に参拝し、これからの学園生活の立ち行きをお願いした。その後、境内でクラス毎の記念写真を撮った。

◇**お届け(高1 友田 隼咲)**  
4月8日に中学校新入生125名、高等学校新入生192名、合計317名は多くの方々の

も行った。  
**進路委員会** 7月8日・9日、高3学年団は学力の現状分析と今後の指導方針を検討した。  
**中3進路学習** 7月17日に進路課長の室相裕一教諭から進路についての話を聞いた。  
**授業・補習** 7月28日～31日、高3は特別授業を、8月3日～7日に補習を実施した。中学および高1・高2は7月31日まで通常授業を実施し、8月3日～7日に特別授業を実施した。

**終業式** 高3は7月31日に、その他の学年は8月7日に、1学期終業式がオンラインで行われた。  
**個別面談** 中高の全クラスで行われた。一学期を振り返り、夏休みの過ごし方や進路選択等について個別に懇談を実施した。  
**オープンスクール** 7月26日、8月29日、第22回目の一日入学が行われた。7月はオンライン形式で実施した。8月は、感染防止対策を行いながら実施し、小学生や中学生および保護者を合わせて90名の参加があった。授業体験や部活動体験を通して、金光学園での生活の一部を楽

祝福を受け、金光学園に無事入学させて頂くことができました。どうぞ神様にお礼を申し上げて下さい。

私たちは自らの意志で、勉学やスポーツに励むことを目的として金光学園に進学しました。それぞれの夢を実現させるために精進し、一日一日を大切にすごして、充実した学園生活を送れるようにすることを誓います。

この先、大きな壁にぶつかることもあると思いますが、学園の合言葉「人を大切に 自分を大切に 物を大切に」を心にとどめ、先生方、家族、友人など多くの人に支えて頂きながら、乗り越えていきたいと願っています。

また、新型コロナウイルスの影響で、さまざまな行事が中止や延期になることが予想されますが、全員が高い志を掲げ、安心・安全に過ごせるよう、どうぞよろしくお願ひします。

◇**教主金光様のおこぼ**  
皆さん、おめでとうございます。今日も明日もあさっても、皆、今日今日になります。どうぞ、お世話になるすべてに礼をいう心をもって、今を大切に、今申

されました願ひに沿って勉強を進められ、おかげを頂かれますよう、祈ってやみません。

**なんでも相談室** 毎週水曜日は午前10時から午後5時まで第1相談室で開設され、学校カウンセラーがカウンセリング・助言・支援を行っている。

**検尿** 6月3・4日に検尿を実施した。  
**人権講演** 6月8日、高3はNPO法人ヒカリカナタ基金理事長の竹内昌彦先生による講演「私の歩んだ道～見えなから見えたもの～」を聴き、笑いあり涙ありのお話の中から今後の人生への示唆を受けた。

**性教育** 中3は6月5日と6月19日に、男女交際や性感染症・避妊について学習した。

**人権教育** 中1は6月26日に、Eテレ「いじめをノックアウト」を視聴し、感想を書いた。7月22日には、その結果を通信にまとめたものを元にして、今何ができるかをクラスで話し合い、「わたしの行動宣言」を作成した。

**心電図** 6月29日に中1、30日に高1を対象に実施した。高1は胸部X線撮影

しく体験した。9月11・12日、PART 2のほつま祭にも多くの小学生が参加した。

**始業式** 8月17日、2学期始業式がオンラインで行われた。校長式辞の後、生活課からの諸注意があった。  
**休み明けテスト** 高1・2は8月17日～19日に、高3は8月17日にそれぞれ実施した。

**教育実習** 8月31日から9月19日までの期間、卒業生7名が2週間または3週間の実習を行った。  
**ほつま祭** 9月12日・13日、「Power & Smile」笑顔の力で乗り越えよう」をテーマに、感染防止対策の観点から規模をやや縮小し、ほつま祭が開催された。

**高校体育会** 9月16日、晴天の下、高校体育会が行われた。密集状態をできるだけ避けるよう、新たな種目を多く実施し、それぞれに熱戦が繰り広げられた。  
**耳鼻科検診** 9月24日に中1、25日に高1を対象に実施した。

**眼科検診** 9月24日に中1と中3、25日に高1と高3を対象に実施した。  
**高校進学説明会** 9月24日、公立中学

校の先生方を対象に令和3年度高校入試の説明等を行った。

#### 塾対象入試説明会

9月25日、塾の先生方を対象に1・2時間目は全学年全クラスを授業公開し、その後の全体会では令和3年度の中学・高校入試などについて説明を行った。

#### 進路講演

9月25日、高2はキャリア・サクセス代表 山崎裕正氏による講演「金光学園高校2年生のための進学ガイド」を聞き、新大学入試制度について学んだ。高1はオンラインで、河合塾進学アドバイザー石橋佑基氏による大学入試に関する話を聞いた。

#### 中学体育会

9月27日、晴天に恵まれ、中学体育会が開催された。密集状態を避けるため、新たな種目を数多く実施した。例年制作されるマスコットの代わりに、揃いのTシャツを着て行った応援合戦では、それぞれの兄弟学級が団結力を示した。

#### 進路学習

9月29日、中3は高校教務課長の話の聞き、高校生活と進路選択について考えた。また、10月3日、高校からの学習活動に備えて進路適性検査を実施した。9月27日、10月2日、中2は卒

業生のJTB福山支店 柚木孝之氏を招き、現在の仕事に関する話を聞き、将来の職業を見据えた中学生時代の過ごし方について考えた。

#### 教育相談保護者の会

10月10日、学校カウンセラー安原こずえ先生を講師に、2名の保護者と教育相談員とで交流会が行われた。

#### 金光学園杯小学生卓球大会

10月18日、第20回の卓球大会が小体育館で開催された。32名の参加があり、シングルスで男女別に優勝杯を競い合った。

#### 心の教育

10月23日、中1は金光道晴校長から大先輩の中山亀太郎先生についての話を聞き、創立記念式を前にして金光学園の歴史や建学の精神を学んだ。

#### 内科歯科検診

高校は10月21日・22日に、中学は10月28日・29日に、内科・歯科の検診が行われた。

#### 性教育

中1は10月16日にDVD「正しく知る！二次性徴Q&A」「男女交際Q&A」を見て、アンケートに答え、感想文を書いた。11月6日に男女の身体の相違を理解し、お互いに尊重することを学んだ。

#### 遙照登山

10月22日、中1は遙照山登山を行った。深まり行く秋の中、飯ごう炊きさん行い、楽しいひとときを過ごした。

#### イングリッシュ・キャンプ

10月25日、中2は国立吉備青少年自然の家を訪れ、クイズや借り物競走など英語を用いたアクティビティを行った。

#### 中学・高校入試模擬テスト

10月25日、来春の中学校入試を受験する小学校6年生を対象に、10月31日、来春の高等学校入試を受験する中学3年生と学園の中学3年生（希望者）を対象に模擬テストを行い、多くの受験生が本番さながらに挑戦した。また高校の推薦入試受験希望者には面接を行った。その後、入試説明会が行われ、それぞれに令和3年度入試についての説明を行った。

#### 人権教育

中2は11月14日にビデオ「ひめゆりの塔」を見て感想文を書いた。中3は10月3日にEテレ「ハートネットTV」を見て、感想文を書いた。また、28日に各クラスで感想文をもとに話し合いを行った。高1は11月1日にハンセン病に関するDVDを視聴し、感想文を書いた。

#### 読書会

高2は10月30日に、中2、高

1は11月6日に、中1は11月19日にそれぞれ学年で希望の本を選び、各グループに分かれて、意見交換をした。

#### 教科担当者会議

中1から中3まで、日頃の授業の様子や中間考査の結果についての情報が交換され、個々のすぐれた点や改めたい点が指摘検討された。

#### ロードレース

11月10日、中学校全体のロードレース大会が行われた。男子は4キロ、女子は2キロのコースをそれぞれ力走した。

#### 創立126年記念式

11月13日、創立126年の記念式がオンライン形式で挙行された。生徒代表中澤勇之助くんの所願表明は、大変すばらしく後輩に向けて大変な元気を与えた。

#### 探究Ⅱ校内発表会

11月18日に理系が技術・情報、生物、天文の3つのゼミで研究した成果についてポスター発表を、19日に文系が地域学のゼミで研究した成果についてプレゼン発表を行った。

#### 一日旅行

11月24日、中3は中止になった修学旅行の代替として、一日旅行を行った。香川県のレオマワールド、四国水族館を訪れ、楽しく過ごした。

**お祝い** 定金肇先生には岡山県私学協会功労者表彰を受賞され、お慶び申し上げます。事務職員 楠葉（旧姓・飯田）尚子氏には3月19日に結婚、松嶋有美先生には6月29日に次女のご誕生、松田恵梨香先生には11月21日に次男のご誕生、お慶び申し上げます。

**お悔やみ** 奥野公子先生の御岳父には4月9日にご逝去、内村政司先生の義理の御祖母には5月16日にご逝去、鳥越暁子先生の御祖母には5月19日にご逝去、井上裕介先生の御祖母には6月19日にご逝去、森下美穂先生の御祖母には7月5日にご逝去、岡辺雅男先生の御祖父には9月13日にご逝去、小畑嘉奈子先生の御祖父には10月3日にご逝去、服部和人先生の御祖父には10月26日にご逝去、井上裕介先生の御祖母には11月2日にご逝去、中野真氏（中3保護者）には11月17日にご逝去、平川真太郎先生の義理の御祖母には12月4日にご逝去、松島慎一郎氏（高2保護者）には12月11日にご逝去、謹んでお悔やみ申し上げます。

**新型コロナウイルスの影響について**  
新型コロナウイルスの影響により、4月11日～5月30日まで一斉休校を実施した。その期間の学力保障については、当初は課題を配布して対応したが、4月20日以降はビデオ会議システムZOOMを利用し、リアルタイム双方向形式のオンライン授業を、全学年を対象に行った。その他にも、多くの学校行事において中止や延期、規模の縮小を余儀なくされている。実施した行事については、感染防止対策を講じた上で行った。

# 教室の窓から

「ピンポイント」「入室許可」リアルタイムでのオンライン授業が始まった。新型コロナウイルス感染症による休校の最中、4月27日から初めてオンライン授業を開始することができた。実施に至るまでには様々なハードルがあったが、教員の思いは一つ、「本校の生徒と直接の授業がしたい」という熱い願いだった。パソコンの画面には、顔を出して元気に応答してくれる中学1年生もあれば、真っ暗なたくさんの黒い枠が広がる上級学年もあった。そして、生徒の顔が見えようが見えまいが、画面に向かって教室で懸命に一人声をあげる教員がいた。とにかく機器に苦手であるうがなかるうが、教員も助け合って実施に至るまでになり、5月を終え、オンライン授業が終了した。

この間、オンライン研究会で他校の実情を聞くと、何とリアルタイムでのオンライン授業は2割程度とか。金光学園では今回のオンライン授業を機に、6月の授業再開後も、ICT機器を取り入れた授業がずいぶん増えるようになった。金光学園のICT教育の着実な進化が見えてきた。しかし、スクリーンが小さくて見えにくい、生徒にはタブレットが無い、ネットワークが不安定になるなど、まだまだ課題が多いことが分かった。今回のことを機に、今後は新入生の入学時に全員が個人端末を購入し、そして、スクリーンが大きく見やすい画面になり、ネットワーク環境が安定することを祈り、金光学園のICT教育が本格化することを願うばかりだ。

「難はみかけのはじめなり」という金光教のみ教えのように、多くの困難を乗り越え様々な可能性を創り出す金光学園教育よ、永遠に光あれ！

## 編集後記

新型コロナウイルスによる影響は、昨年度3月号のやつなみを編集していた当時には及びも寄らないほど大規模なものになり、世界中で未だに収束の見通しも立たない状態である。

11月に福山で行われた地区会に参加した際にも、時間の半ばを過ぎた辺りでコロナ禍の話題になった。学校行事に部活動、進路を見据えたオーブンキャンパス、そして大学受験と、ご家庭でも何かと頭を悩ませることが少なくないという。

しかし、未曾有の危機だからこそ、多感な中高生に向き合う大人としての姿勢が試されるのではないだろうか。保護者、教職員それぞれの立場で、泰然として前向きにコロナ禍を生きる姿を子どもたちに示したい。そんな風に思う師走のこの頃である。

令和2年12月15日印刷  
12月22日発行

編集者 金光学園やつなみ保護者会  
やつなみ編集部

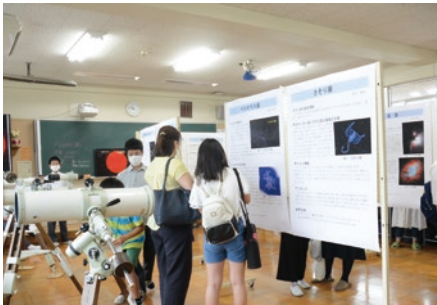
印刷所 倉敷市船穂町船穂二〇九五―一  
玉 島 活 版 所

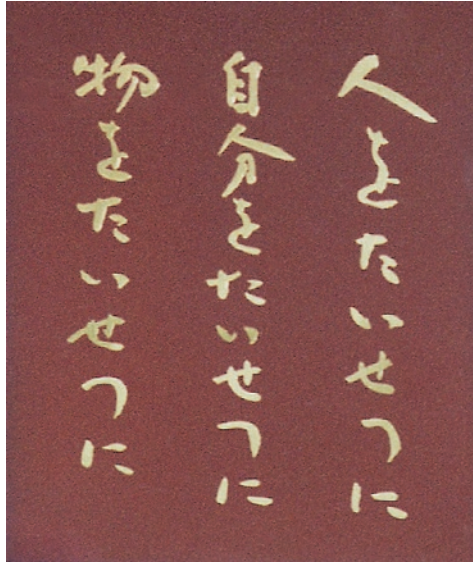
発行所 浅口市金光町占見新田一三五〇  
金光学園内  
金光学園やつなみ保護者会

## 体育会



## ほつま祭





◎ほつま = 秀真

非常に優れ整い備わっていることの意。

「日本という国」の古異名の一つ。

創立後、生徒会や冊子の名に使用。

ほつま体育館、ほつま祭などで使われる。

.....  
◎やつなみ = 八波

どこまでもひろがり栄えゆく願いをこめる。

金光教・学園・中学・高校の徽章のふちどり。

P T A機関誌創刊当時、会員から公募してつけた。

人をたいせつに 自分をたいせつに 物をたいせつに

<http://www.konkougakuen.net>

E-mail [info@konkougakuen.net](mailto:info@konkougakuen.net)